

静止画カラーファイル
CF-9945HD/SD
取扱説明書

必ずお読みください！

ビデオトロン株式会社

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1、電源プラグ、コードは

- ・指定された電源電圧(AC100V 50/60Hz)以外では使用しないでください。
- ・AC 電源(室内電源)の容量を超えて機械を接続し長時間使用すると火災の原因になります。
- ・差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・コードは他の機器の電源ケーブルや他のケーブル等にかませないでください。
- ・コードの上に重い物を載せないでください。電源がショートし火災の原因になります。
- ・機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にしてからプラグを抜いてください。

2、本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・すぐに電源スイッチを切ってください。ただし、電源回路上、切れない場合があります。その時は電源プラグを正しく抜いてください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはバザーによる警報音が出た場合にはすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・上下に設置されている機械の電源スイッチまたはメインのブレーカーを切ってください。
- ・空調設備を確認してください。
- ・しばらく、手や体を触れないでください。ファンの停止が考えられます。設置前にファンの取り付け場所を確認しておきファンが停止していないか確認をしてください。5年に一度はファンの交換をおすすめします。
- ・機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり火災の原因になります。
- ・消火器は必ず1本マシンルームに設置し緊急の場合に取り扱えるようにしてください。
- ・弊社にすぐ連絡ください。

3、機械の近くでは飲食やタバコ、火気を取り扱うことは絶対に行わないでください。

- ・特にタバコ、火気を取り扱うと電気部品に引火し火災の原因になります。
- ・機械の近く、またはマシンルーム等の密閉された室内で可燃性ガスを使用すると引火し火災の原因になります。
- ・コーヒーやアルコール類が電気部品にかかりますと危険です。

4、修理等は、ご自分で勝手に行わないでください。

下記のあやまちにより部品が発火し火災の原因になります。

- ・部品の取り付け方法(極性の逆等)を誤ると危険です。
- ・電源が入っている時に行くと危険です。
- ・規格の異なる部品の交換は危険です。

5、その他

- ・長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
 - ・重量のある機械は1人で持たないでください。最低2人がかかえてください。腰を痛めるなど、けがのもとになります。
 - ・ファンが回っている時は手でさわらないでください。必ず停止していることを確かめてから行ってください。
 - ・車載して使用する時は確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
 - ・本体のラックマウントおよびラックの固定はしっかり建物に固定してください。地震などによる災害時危険です。
- また、地震の時は避難の状況によりブレーカーを切るか、火災に結び付かない適切な処置および行動を取ってください。そのためには日頃、防災対策の訓練を行っておいてください。
- ・機械内部に金属や導電性の異物を入れないでください。回路が短絡して火災の原因になります。
 - ・周辺の機材に異常が発生した場合にも本機の電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1、操作卓の上では飲食やタバコは御遠慮ください。

コーヒーなどを操作器内にこぼしスイッチャー部品の接触不良になります。

2、機械の持ち運びに注意してください。

落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。

また、足元に落としたりしますと骨折等けがの原因になります。

3、フロッピーディスクやMOディスクを取り扱う製品については

- ・規格に合わないディスクの使用はドライブの故障の原因になります。
- マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・長期に渡り性能を維持するために月に一回程度クリーニングキットでドライブおよびMOディスクをクリーニングしてください。
 - ・フィルターの付いている製品はフィルターの清掃を行ってください。
- 通風孔がふさがり機械の誤動作および温度上昇による火災の原因になります。
- ・強い磁場にかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
 - ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
 - ・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

●定期的なお手入れをおすすめします。

- ・ほこりや異物等の混入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切ってプラグを抜いてから行ってください。
- ・正面パネルから、または通風孔からのほこり、本体、操作器内部の異物等の清掃。
- ・ファンのほこりの清掃
- ・カードエッジコネクタタイプの基板はコネクタの清掃を一ヶ月に一度は行ってください。

また、電解コンデンサー・バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社までお問い合わせください。

**上記現象以外でも故障かなと思われた場合は弊社にご連絡ください。

☆連絡先.....ビデオトロン株式会社

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

E-Mail cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 ** 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

**携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目次

| | |
|----------------------------|-----------|
| この製品を安全にご使用いただくために..... | 1 |
| 1. 概要..... | 1 |
| 《特長》..... | 1 |
| 2. 機能チェック..... | 2 |
| 1.構成..... | 2 |
| (1)本体..... | 2 |
| (2)操作パネル..... | 2 |
| 2.機能チェック接続図..... | 2 |
| 3.POWER ON までの手順..... | 3 |
| 4.基本動作チェック..... | 3 |
| 3. 各部の名称と働き..... | 5 |
| 1.本 体..... | 5 |
| (1)本体正面..... | 5 |
| (2)本体背面..... | 6 |
| 2.操作パネル..... | 8 |
| (1)操作パネル正面..... | 8 |
| (2)操作パネル背面..... | 11 |
| 4. 映像フォーマットの設定..... | 12 |
| 5. 操作方法..... | 13 |
| 1.起動画面..... | 13 |
| 2.操作概要..... | 14 |
| 3.全モード共通の操作..... | 15 |
| 4.ファイルの互換性について..... | 15 |
| 5.ファイル構造について..... | 15 |
| 6.トランジションについて..... | 16 |
| 7.送出ポジションについて..... | 16 |
| 6.システムモード..... | 17 |
| 1.FTP TRANSFER..... | 18 |
| 2.SUPERIMPOSE..... | 18 |
| 3.SYSTEM PHASE..... | 18 |
| 4.READ CONFIG..... | 19 |
| 5.WRITE CONFIG..... | 19 |
| 6.SAFETY MARKER..... | 20 |
| 7.TEST PATTERN..... | 21 |
| 8.SCSI CONFIG..... | 21 |
| 9.LAN CONFIG..... | 22 |
| 10.FTP CONFIG..... | 22 |
| 11.DRIVE FORMAT..... | 23 |
| 7.編集モード..... | 24 |

| | |
|---|-----------|
| 1.WRITE / INSERT WRITE | 25 |
| 2.ROLL WRITE | 28 |
| 3.COPY..... | 31 |
| (1)FILE COPY手順..... | 31 |
| (2)PROGRAM COPY / PAGE COPY手順..... | 32 |
| 4.MOVE..... | 34 |
| (1)FILE MOVE手順 | 34 |
| (2)PROGRAM MOVE / PAGE MOVE 手順..... | 35 |
| 5.DELETE | 37 |
| (1)FILE DELETE手順 | 37 |
| (2)PROGRAM DELETE / PAGE DELETE手順..... | 38 |
| 6.DELETE INHIBIT..... | 39 |
| (1)FILE DELETE INHIBIT手順..... | 39 |
| (2)PROGRAM DELETE INHIBIT/ PAGE DELETE INHIBIT手順..... | 40 |
| 7.FILE PROPERTY | 41 |
| (1)TRANSITION属性の設定手順..... | 41 |
| (2)POSITION属性の設定手順 | 42 |
| (3)ROLL FILEの属性の設定手順..... | 43 |
| 8.送出モード..... | 45 |
| 1.DIRECT 送出..... | 46 |
| 2.PRESET 送出..... | 48 |
| 3.黒味挿入 PRESET 送出..... | 50 |
| 9.MO メディア | 52 |
| 1.FAT16 フォーマット | 52 |
| 2.CF-50D1 フォーマット..... | 53 |
| 10.LAN | 53 |
| 1.概要 | 53 |
| 2.接続..... | 53 |
| 3.ネットワーク設定..... | 54 |
| (1)LAN CONFIG..... | 54 |
| (2)FTP CONFIG | 55 |
| 4.ネットワーク接続の確認..... | 55 |
| 5.転送ファイル仕様..... | 56 |
| (1)TIFFファイル..... | 56 |
| (2)TARGAファイル..... | 56 |
| (3) vPNGファイル..... | 57 |
| 6.FTP サーバー機能 | 58 |
| 7.FTP サーバー転送操作手順 (例)..... | 59 |
| 8.FTP クライアント機能..... | 61 |
| 9.FTP クライアント転送操作手順 (例)..... | 61 |
| 11.RS-232C 外部制御コマンド..... | 63 |

| | |
|------------------------------|-----------|
| 1.通信設定..... | 63 |
| 2.データフォーマット..... | 63 |
| 3.コマンド詳細..... | 63 |
| 12.外部 SCSI 装置の接続..... | 65 |
| 13.トラブルシューティング..... | 66 |
| 14.外部インターフェース..... | 69 |
| 1.SCSI..... | 69 |
| 2.RS-232C..... | 69 |
| (1)コネクタ表..... | 69 |
| (2)RS-232C設定..... | 69 |
| 3.RS-422..... | 70 |
| (1)コネクタ表..... | 70 |
| 4.100BASE-TX..... | 70 |
| (1)コネクタ表..... | 70 |
| 5.REMOTE..... | 71 |
| (1)コネクタ表..... | 71 |
| (2)入力端子..... | 71 |
| (3)出力端子..... | 71 |
| 15.仕様..... | 72 |
| 1.定格..... | 72 |
| 2.性能..... | 73 |
| 3.機能..... | 74 |
| 16.操作パネル図..... | 75 |
| 17.外形寸法..... | 76 |
| 1.本体..... | 76 |
| 2.操作パネル..... | 77 |

1. 概要

静止画カラーファイル CF-9945HD/SD は、HD/SD-SDI の FILL 信号と KEY 信号を同時に記録し送出がおこなえる小型軽量の静止画ファイル装置です。

入力系は HD/SD-SDI の FILL 出力と KEY 出力がそれぞれ 2 系統あり、各々の系統を切り替えて使用することができます。スーパーインポーズ機能を内蔵し LINE の映像信号に記録した素材を合成することが可能です。出力系は HD/SD-SDI の ON AIR 出力と NEXT 出力があり、各々 FILL 出力と KEY 出力があります。FILL、KEY 信号は 10bit できめ細やかな画像を記録します。

ファイルの読み出しや書き込みの操作はコントロールパネルや 10 キーリモコン(送出操作のみ)を使用して行うことができます。

ファイル編集では WRITE/COPY/MOVE/DELETE などの素材管理を、NEXT 画面のメニュー表示で選択/実行を簡単に操作できます。

ファイル送出では ON AIR 出力と NEXT 出力があり、NEXT 出力では次に ON AIR 送出されるファイルの確認がおこなえます。ON AIR 送出ではファイル読み出し時にフェード、スライド、ワイプなどのトランジションエフェクトが行えます。また、ロール・クロール送出をおこなうことができます。

ネットワーク機能を持ち、PC とのシステム運用や GPI や RS232C でのコマンド制御が可能です。

《特長》

- HD/SD 両対応のカラー静止画ファイル装置
- 1080i、525i のフォーマットに対応
- ファイルの読み出しは、[CHG]ボタンを押すだけの簡単操作
- FILL 信号と KEY 信号を同時、または別々に記録可能
- キー信号は 10bit の階調があり、ハーフトーンスーパーにも対応
- 1ファイルを 1.0 秒で高速に読み出し(内蔵ハードディスク)
- ファイル毎にポジションの設定や送出時のトランジションを記憶
- ロール・クロール送出が可能
- 内蔵の MO ドライブで記録したファイルの受け渡しが可能
- LAN を使用して Targa、TIFF ファイルの読み込みが可能
- FILL、KEY 入力がそれぞれ 2 系統あり、操作パネルで入力ソースの選択が可能

2. 機能チェック

1. 構成

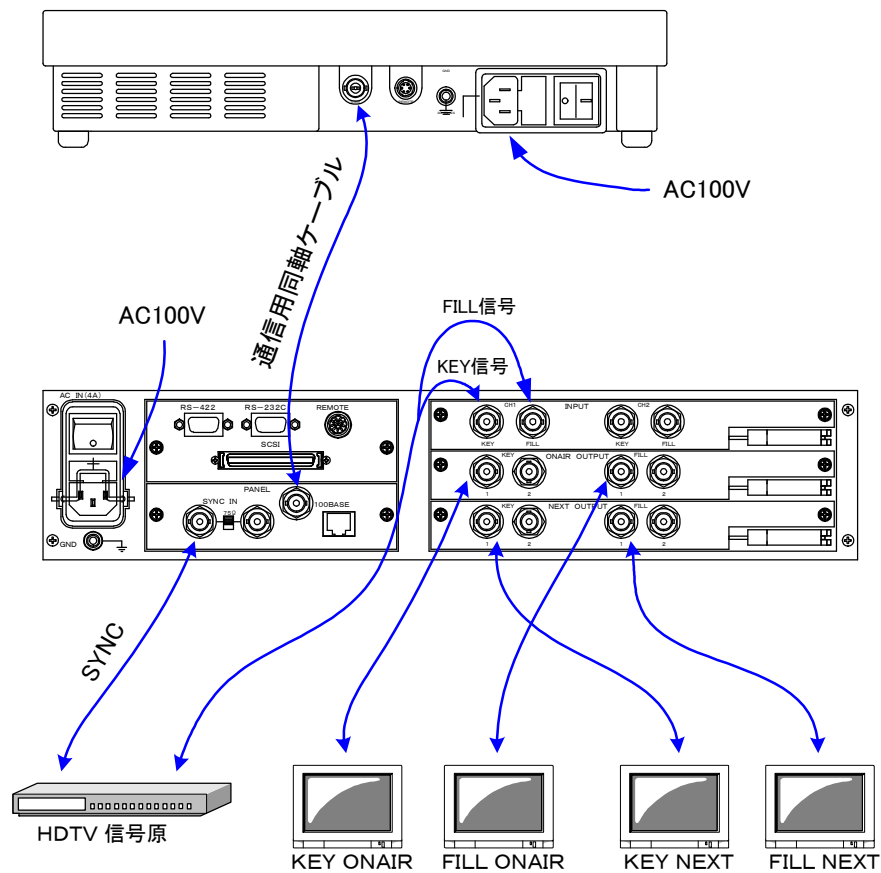
(1) 本体

| 番号 | 品名 | 形名・規格 | 数量 | 記事 |
|----|---------------------|--------------|----|--------|
| 1 | CF-9945HD/SD 本体 | CF-9945HD/SD | 1台 | |
| 2 | 電源ケーブル | 2m | 1本 | |
| 3 | 取扱説明書 | | 1部 | |
| 4 | 本体用ヒューズ | 4A | 3本 | |
| 5 | MOディスク | 2.3GB | 1枚 | 空白ディスク |
| 6 | MOディスク イジェクトピン | | 1本 | |
| 7 | マウントビス | 5m/m | 4本 | |
| 8 | REMOTE/TALLY 用コネクター | 12ピン | 1個 | |

(2) 操作パネル

| 番号 | 品名 | 形名・規格 | 数量 | 記事 |
|----|------------------|------------|----|---------|
| 1 | 操作パネル(FILE CONT) | CF-9945-01 | 1台 | |
| 2 | 通信用同軸ケーブル | 10m | 1本 | 本体との通信用 |
| 3 | 電源ケーブル | 2m | 1本 | |
| 4 | パネル用ヒューズ | 2A | 3本 | |

2. 機能チェック接続図



3. POWER ON までの手順

- (1) 本体、操作パネルの電源プラグを AC100V のコンセントに挿入します。
- (2) 本体、操作パネル間を通信用同軸ケーブルで接続します。
- (3) SYNC IN に 3 値 SYNC または BBS を入力します。
- (4) SYNC IN の信号に同期した FILL 信号、KEY 信号を各々 CH1FILL IN、CH1KEY IN に入力します。本機の設定は出荷時 1080i/59.94Hz になっておりますので、1080i/59.94Hz の信号、及び SYNC を入力してください。それ以外の信号で確認したい場合は『4.映像フォーマットの設定』を参照し、設定変更を行ってください。
- (5) ON AIR FILL、ON AIR KEY、NEXT FILL、NEXT KEY をモニターに出力します。
- (6) 本体、操作パネルの電源スイッチを投入します。電源スイッチを投入すると本体のパワーランプが点灯し、セットアップ処理に入ります。セットアップ処理は 30 秒程かかり、終了と同時にパネル上の COM エラーの点滅が消えます。

4. 基本動作チェック

下記の操作で本体が正常に動作していることをチェックします。

正常に動作しない場合は『13.トラブルシューティング』を参照してください。

- (1) 内蔵 HDD のファイル番号 01、02 へ FILL+KEY 信号を書き込みます。
 - 1) パネル上の COM エラーの点滅が消えている事を確認します。1分以上経過しても COM エラーの点滅が消えない場合は『13.トラブルシューティング』を参照してください。
 - 2) **EDIT**、**WRITE** を押して編集・書き込みモードに入ります。
この時 NEXT は入力の映像がスルーで出力されています。
 - 3) 記録先のファイル番号を指定します。
FILE の **01/51** を押します。
 - 4) 現在 NEXT からスルーで出力されている映像をフリーズし、確認を行います。
CONFIRM を押します。
キャンセルする場合は **WRITE**、または **EDIT** を押します。
 - 5) NEXT にフリーズされている映像をファイルへ書き込みます。
CHG/EXEC を押します。
 - 6) 入力の信号を変えて同様な操作で 2 枚目の書き込みを行います。
FILE の **02/52** を押します。
 - 7) **CONFIRM** を押します。
 - 8) **CHG/EXEC** を押します。

以上の操作でファイル番号 01、02 に書き込みが行われました。

(2)書きこんだファイルを ON AIR へ送出します。

1) **EDIT**を押して編集・書きこみモードを抜け、送出モードにします。

2) **PRESET**を押してプリセット送出モードにします。

3) 登録済みのスイッチ**01/51**、**02/52**が緑色に点灯しています。

ここで**01/51**のスイッチを押すと赤色の点滅に変わり、**01/51**に書き込まれた映像がNEXTへ出力されます。

4) **CHG/EXEC**スイッチを押すとNEXTに出力されている映像がON AIRへ送出され、NEXTには次のファイル、**02/52**の映像が読み出されます。

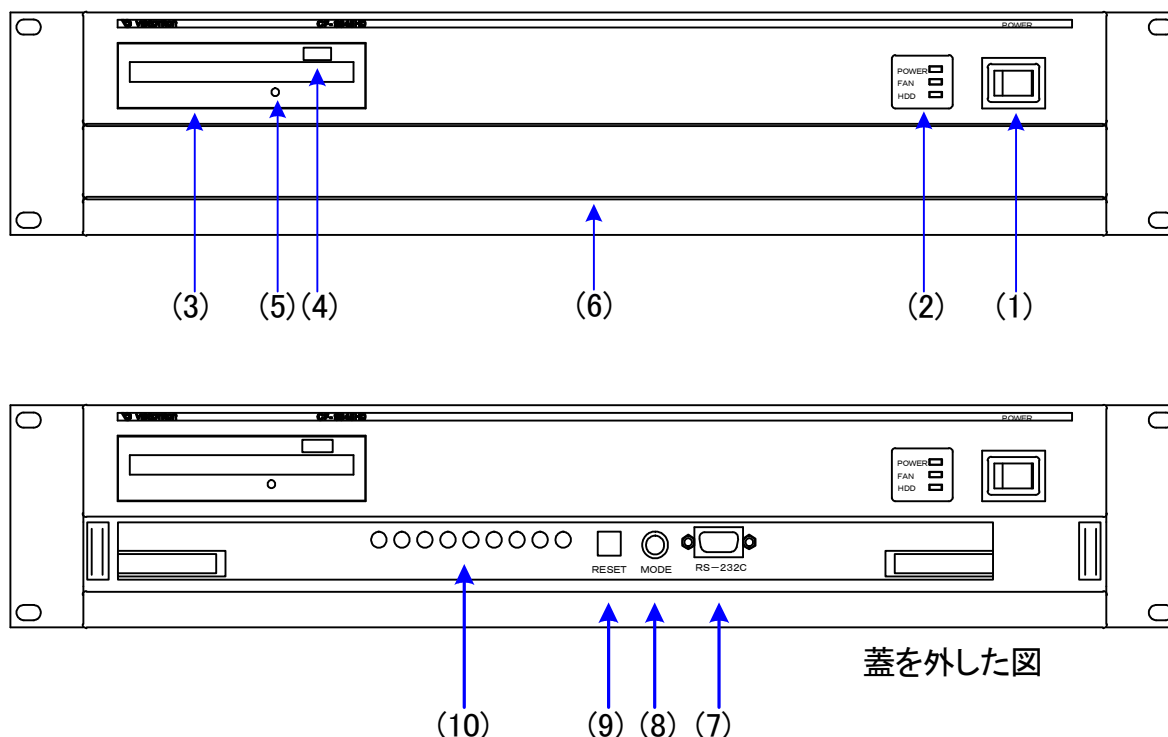
以上の操作が正常に行われましたら基本動作チェックは完了です。

※文中の□で囲まれている単語は操作パネル上のスイッチを意味します。

3. 各部の名称と働き

1. 本体

(1) 本体正面



(1) POWER(副電源スイッチ)

電源のON/OFFスイッチです。ONでオペレーションランプのPOWERが緑色に点灯します。

(2) オペレーションランプ

POWER : 電源のONでLEDが緑色に点灯します。

HDD : 内蔵ハードディスクのアクセスを示すLEDです。アクセス中は緑色に点灯します。

FAN : 本体側面にFANが4台内蔵されています。何れか1台でも故障すると橙色に点滅します。

その際は弊社までご連絡ください。

(3) 2.3GB MOディスクドライブ

パソコンやST-300HD、CF-9945HD/SD、TW-9950HD/SDで作成・編集した静止画ファイル、及びロールファイルを直接読むことができます。

(4) MOディスク イジェクトスイッチ

MOディスクを取り出す際に押します。

(5) MOディスク 強制イジェクトスイッチ

MOディスクが通常のイジェクトスイッチで取り出せなくなった場合に付属のイジェクトピンを押し込みます。

(6) 蓋

左右のネジを外すことにより取り外しが行えます。主にメンテナンス用です。

(7) RS232C

メンテナンス用です。通常は使用しません。

(8) MODE

映像フォーマットの設定を行います。(出荷時の設定は1080i)

電源投入時の設定が有効になります。フォーマットを変更した場合、本体の再起動が必要です。

1080i 59.94Hz

525i 59.94Hz

(9) RESET

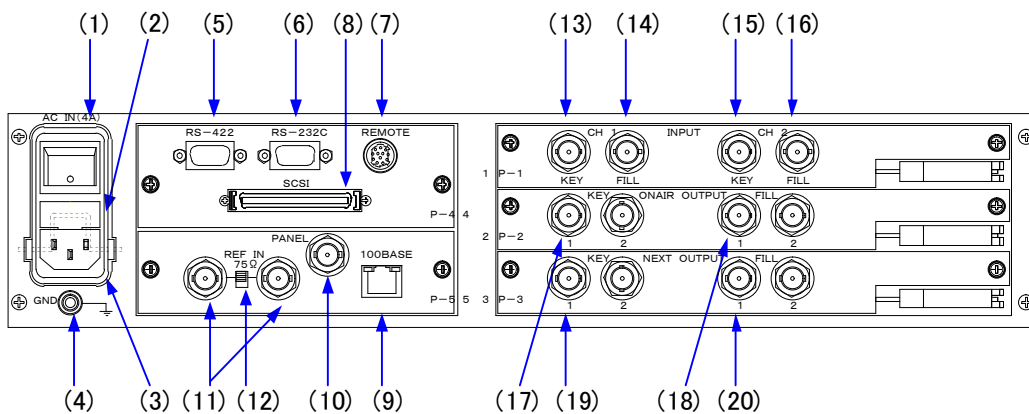
本体のリセットスイッチです。

(10) LED

本体の状態を監視することが出来ます。向かって右側を1番目として8つのLEDがあります。

1. 約1秒毎に点滅します。本体の動作が正常な状態では絶えず点滅を繰り返しています。
2. SCSIデバイスへのアクセス時に点灯します。
3. LANの通信時に点灯します。
- 4~7は未使用です。
8. パネルコマンド実行中に点灯します。

(2) 本体背面

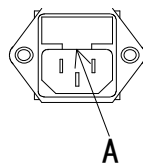


(1) POWER(主電源スイッチ)

本体の主電源スイッチです。

(2) FUSE

ヒューズホルダーです。



ヒューズの交換方法

マイナスドライバー等で、下からヒューズホルダーの爪(A部)に引っ掛け、手前に引き出してヒューズを交換してください。その際必ず指定の4Aのヒューズを使用してください。

指定以外のヒューズを使用すると、機器の破損・発火の可能性があります。
交換はAC INの電源ケーブルを抜いてから行ってください。

(3) AC IN

三端子の電源ケーブルを接続します。

AC入力はAC95~120Vの範囲のものを使用してください

(4) GND

シャーシー本体のグラウンド端子です。

(5) RS-422

RS-422規格の通信ポートです。10キーリモコン(オプション)を接続します。

(6) RS-232C

RS-232C規格の通信ポートです。パソコンとの接続に使用します。

(7) REMOTE

接点入出力端子。外部コントロールでチェンジ、ライト等の動作を行う場合に接続します。

(8) SCSI

SCSIⅢ規格の68ピンハーフピッチコネクタです。SCSI対応機器の増設ができます。



SCSIのターミネーションは自動切換です。外部接続のない場合は内部データターミネーションされるのでデータターミネーターは不要です。外部機器が接続されると内部のターミネーションは切り離されます。外部機器側データターミネーションしてください。

(9) 100BASE-TX

ネットワークでの通信及びファイル転送に使用します。

(10) PANEL

同軸ケーブルで専用パネルと接続します。

専用パネルとの同軸ケーブルは75Ω/3C2Vケーブルで最大100mまで伸ばすことができます。

(11) SYNC IN

同期信号の入力端子です。SYNCまたはBBSを入力します。

(12) 75Ω 終端スイッチ

同期信号を他の機器へブリッジする場合は75ΩスイッチをOFF(下側)にします。

ブリッジしない場合はON(上側)にします。

(13) CH1 KEY INPUT (HD/SD-SDI)

CH1 KEY信号の入力端子です。

(14) CH1 FILL INPUT (HD/SD-SDI)

CH1 FILL信号の入力端子です。

(15) CH2 KEY INPUT (HD/SD-SDI)

CH2 KEY信号の入力端子です。

(16) CH2 FILL INPUT (HD/SD-SDI)

CH2 FILL信号の入力端子です。

(17) KEY ON AIR OUTPUT (HD/SD-SDI)

2系統のKEY ON AIR信号の出力端子です。

(18) FILL ON AIR OUTPUT (HD/SD-SDI)

2系統のFILL ON AIR信号の出力端子です。

(19) KEY NEXT OUTPUT (HD/SD-SDI)

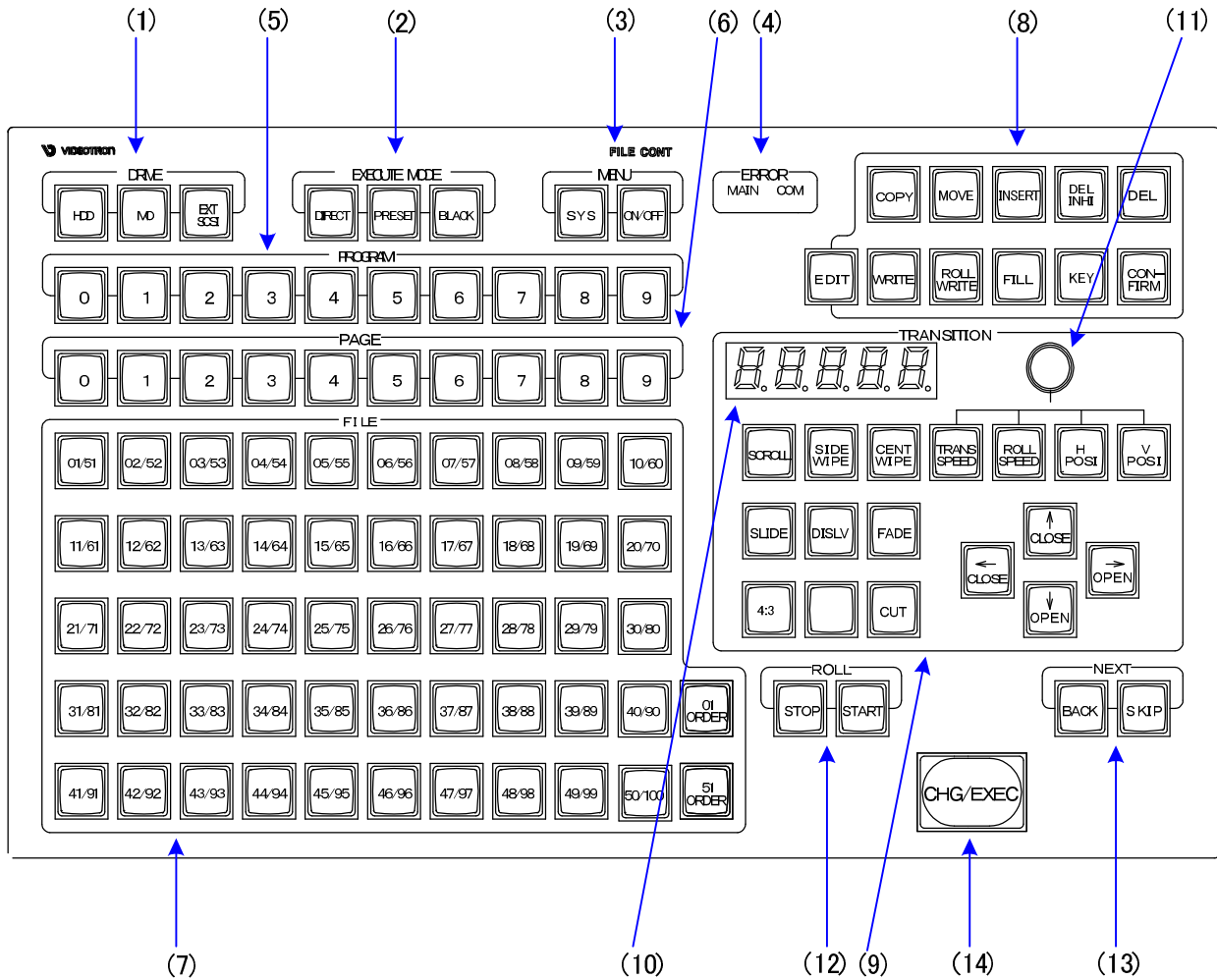
2系統のKEY NEXT信号の出力端子です。

(20) FILL NEXT OUTPUT (HD/SD-SDI)

2系統のFILL NEXT信号の出力端子です。

2.操作パネル

(1)操作パネル正面



(1) DRIVE

アクセスするドライブを指定します。

- HDD** : 内蔵ハードディスクドライブ
- MO** : 内蔵MOディスクドライブ
- EXT SCSI** : 外部に増設したSCSI機器

(2) EXECUTE MODE

ファイルの送出形式を選択します。

- DIRECT** : 選択したファイルを直接ON AIRへ送出します。
- PRESET** : NEXTで選択、確認したファイルを**CHG/EXEC**スイッチでON AIRに送出します。
NEXTは自動的に後続のファイルを出力します。FILEスイッチでNEXTを変更します。
- BLACK** : PRESETモードで使用し、送出するファイル間に常に黒画面を挿入します。

(3) MENU

- SYS** : NEXTにSYSTEM MENUを表示します。
- ON/OFF** : NEXTのMENU表示をON/OFFします。

(4) ERROR

- MAIN** : CF-9945HD/SD本体に障害が起きた場合に赤色の点灯で警告します。
- COM** : パネル～本体間で通信エラーが発生した場合に赤色の点滅で警告します。
また、本体の起動中も赤色に点滅します。

(5) PROGRAM

~ : 番組毎のファイル管理を行います。最大10番組。

(6) PAGE

~ : 番組1つに対して0~9のページ管理を行います。

(7) FILE

~ : ページ1つに対して1~100のファイル管理を行います。

: 1~50のFILEを選択する時に押します。

: 51~100のFILEを選択する時に押します。

素材のファイルは緑色で点灯します。

ロール素材のファイルは緑色で点滅します。

削除禁止ファイルは橙色で点灯します。

(8) EDIT

EDITスイッチを押すと編集モードに入ります。

: 編集モードに入ります。

: FILEをコピーします。

: FILEの移動を行います。

: COPY, MOVE, WRITEモード時にFILEの挿入を行います。

: FILEに削除禁止の設定をします。

: FILEを削除します。

: FILEの書きこみを行います。

: ROLL FILEの書きこみを行います。

: 橙色の点灯でFILL信号の書きこみを行います。

: 橙色の点灯でKEY信号の書きこみを行います。

: 編集モードでFILEを選択したときに確認を行います。

(9) TRANSITION

ファイルをON AIRへ送出する際の、トランジションを設定します。

また、ロールの方向やスピード、出力ポジションの設定もここでを行います。

: スクロールのトランジションを行います。

: 片開きワイプのトランジションを行います。

: 両開きワイプのトランジションを行います。

: スライドインのトランジションを行います。

: ディゾルブ(クロスフェード)のトランジションを行います。

: フェードのトランジションを行います。

: カットのトランジションを行います。

: ロータリースイッチと併せてトランジションの速度を設定します。

: ロータリースイッチと併せてロールの速度を設定します。

: ロータリースイッチと併せて送出時の水平位置を調整します。

: ロータリースイッチと併せて送出時の垂直位置を調整します。

: 4:3モードのトランジションを行います。(1080iで動作時に有効)

十字カーソル

↑CLOSE : 上方向のトランジションを指定します。また、システムメニューのカーソル移動に使用します。

→OPEN : 右方向のトランジションを指定します。また、システムメニューのカーソル移動に使用します。

↓CLOSE : 下方向のトランジションを指定します。また、システムメニューのカーソル移動に使用します。

←OPEN : 左方向のトランジションを指定します。また、システムメニューのカーソル移動に使用します。

(10) DISPLAY

トランジションスピード、ロールスピード、H/Vポジションの値を表示します。

(11) ROTARY SWITCH

トランジションスピード、ロールスピード、H/Vポジションの値を設定します。

速く動かすと可変量が増大します。

(12) ROLL

START : ON AIRにロールファイルが準備されている時、ロールが開始されます。

STOP : ロールが実行されている時、一時停止します。

(13) NEXT

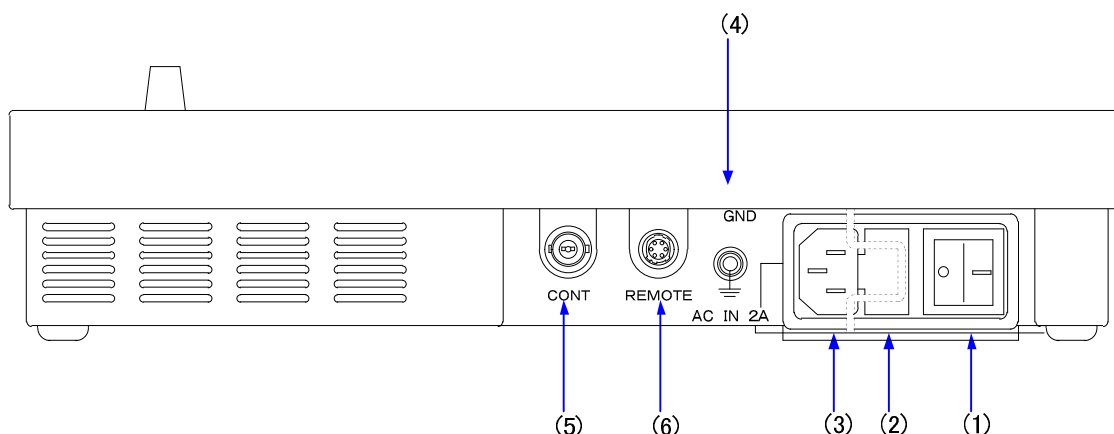
BACK : NEXT出力へファイル番号が小さい方向のファイルを読み出します。

SKIP : NEXT出力へファイル番号が大きい方向のファイルを読み出します。

(14) CHG/EXEC

送出モードではファイルの送出スイッチに、編集モードではファイルの記録、コピー、削除等の実行スイッチとして使われます。

(2) 操作パネル背面

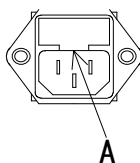


(1) POWER

操作パネルの電源スイッチです。

(2) FUSE

ヒューズホルダーです。



ヒューズの交換方法

マイナスドライバー等で、下からヒューズホルダーの爪(A部)に引っ掛け、手前に引き出してヒューズを交換してください。その際必ず指定の4Aのヒューズを使用してください。



指定以外のヒューズを使用すると、機器の破損・発火の可能性があります。
交換はAC INの電源ケーブルを抜いてから行ってください。

(3) AC IN

三端子の電源ケーブルを接続します。

AC入力はAC95～120Vの範囲のものを使用してください

(4) GND

シャーシー本体のグラウンド端子です。

(5) PANEL

通信用同軸ケーブルで本体と接続します。

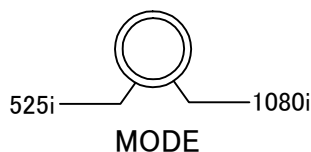
本体との通信用同軸ケーブルは75Ω/3C2Vケーブルで最大100mまで伸ばすことができます。

(6) REMOTE

拡張用の接点入出力端子です。

4. 映像フォーマットの設定

本機が対応する映像フォーマットは 1080i、525i です。



映像フォーマットの設定は本体正面の蓋を外し、MODE と表記のある CODE スイッチで設定します。

出荷時の設定は 1080i/59.94Hz になっております。電源投入時はこの設定内容が反映され、NEXT の起動画面に映像フォーマットが表示されます。

また、各フォーマット間のファイル互換はありませんが、異なるフォーマットのファイルを共有する事はできます。その場合、使用するドライブにより次のことに注意してください。

(1) 内蔵HDDで異なる映像フォーマットのファイルを共有する場合。

映像フォーマットを変更して再起動した場合、以前の設定で記録したファイルは存在せず完全に独立した形で動作します。再び設定を戻し再起動すれば以前に記録したファイルが再び読めるようになります。

記録可能枚数は各フォーマットで記録したファイルの合計で約10000枚です。(140GB HDD, KEY付きカラーファイル時)

(2) 内蔵MOディスクドライブで異なる映像フォーマットのファイルを共有する場合。

映像フォーマットを変更して再起動した場合、以前の設定で記録したファイルはそのまま存在します。異なるフォーマットのファイルは読み出すこともできますが正しく表示されません。この場合、操作パネル上ではどのフォーマットで記録したのかファイルを読み出すまで判断できませんので、この様な使用方法はお勧めできません。各フォーマットに応じたMOディスクをご用意ください。

(3) 外部にSCSI機器を増設して異なる映像フォーマットのファイルを共有する場合。

増設した機器がHDDタイプのものであれば上記の(1)と同様です。増設した機器がMOタイプのものであれば上記の(2)と同様です。

5. 操作方法

1. 起動画面

CF-9945HD/SD、操作パネルの電源スイッチを ON にします。

CF-9945HD/SD が起動し、ドライブチェックなどの初期化処理を行います。

この時、NEXT の出力に以下の起動画面がスーパーインポーズされます。

```
COLOR FILE    CF-9945HD/SD
Ver 01.00.00 R00
1080 i / 59.94Hz
CHECK SCSI
ID = 0  HDD  15880/15885
ID = 1  MO   DRIVE NOT READY
ID = 2  HDD  200/3000

IP ADDRESS 192.168.0.0
```

| | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| Ver 01.00.00 R00 | プログラムバージョンです。 |
| 1080i/ 59.94Hz | 対応する映像フォーマットが表示されます。 |
| ID = 0 | 本機が認識した SCSI の ID 番号です。 |
| HDD 、 MO | ドライブのタイプにより、HDD または MO と表示されます。 |
| 15880/15885 **1 | 残存記録枚数／最大記録枚数が表示されます。 |
| DRIVE NOT READY | MO ディスクが挿入されていないと表示されます。 |
| IP ADDRESS 192.168.0.0 | TCP/IP ネットワークアドレスです。 |

ID = 0 は内蔵 HDD、ID = 1 は内蔵 MO ディスクドライブが使用しています。

外部に SCSI 機器を増設する際は『6.8 SCSI CONFIG』を参照し ID 番号を 2～6 の範囲で指定してください。ドライブチェックなどの初期化処理がすべて終了すると送出モードへ移行します。

****1 残存記録枚数、及び最大記録枚数は FILL および KEY で記録した場合で換算されています。FILL のみまたは KEY のみで記録を行った場合、カウントが変化しない場合があります。KEY のみの画像を 3 回記録すると 1 カウント残存記録枚数から減ります。**

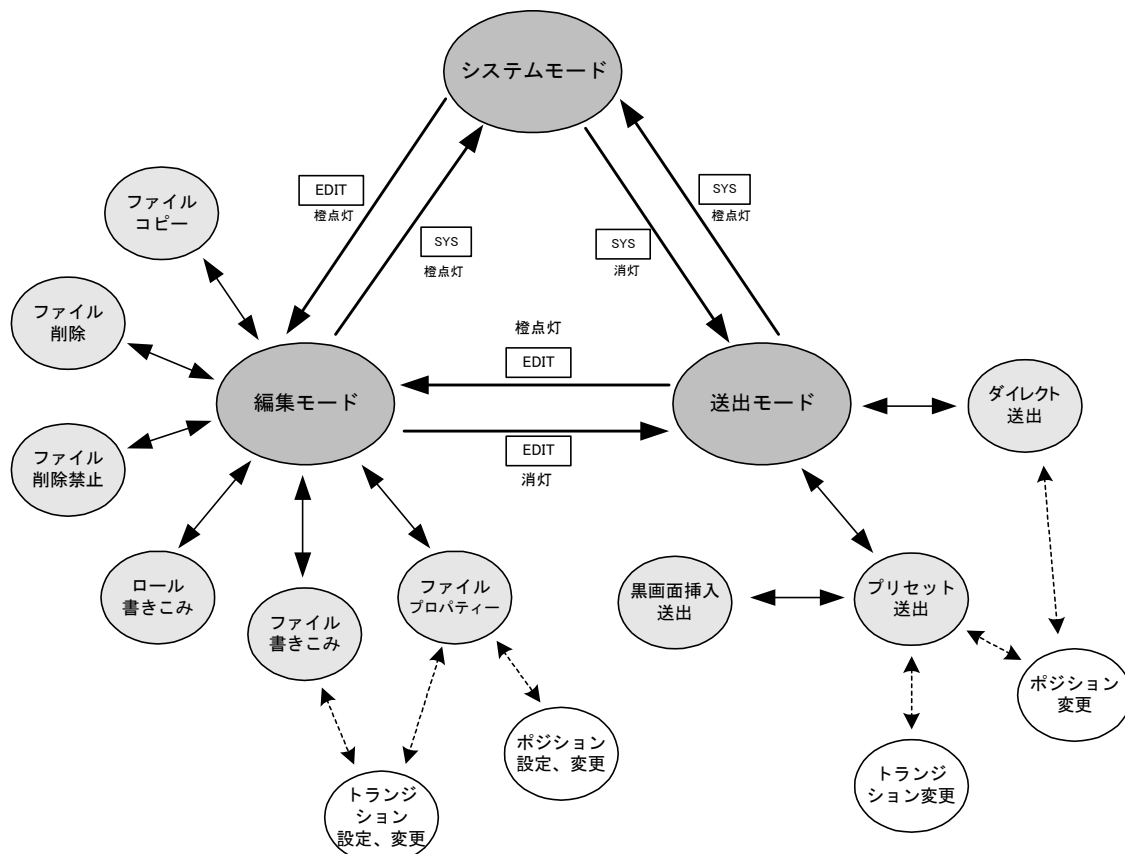
2.操作概要

CF-9945HD/SD は主に以下の 3 種類の動作モードがあります。

| 動作モード | 設定の方法 | 主な用途 |
|---------|----------------------------------|---|
| システムモード | SYS を点灯させる。 | スーパーインポーズの設定 テストパターン表示 ファイルのフォーマット KEY、または FILL に、白または黒画面を挿入 ネットワークアドレスの設定 外部 SCSI 機器の ID 選択 |
| 編集モード | EDIT を点灯させる。 | ファイルの書きこみ、コピー、削除 ファイルの削除禁止指定 ロールファイルの作成 トランジションの設定、変更 ポジションの設定、変更 |
| 送出モード | EDIT 、 SYS を消灯させる。 | ファイルの送出(ダイレクト、プリセット) ロールファイルの送出 トランジションの変更 ポジションの変更 |

どの状態においても **EDIT**、**SYS** を押すことにより、各モードを選択する事ができます。

また、文中の で囲まれている単語は操作パネル上のスイッチを意味します。



専用操作パネルを使用した時の動作モード概念図

3.全モード共通の操作

パネル上で操作できるボタンは緑色に点灯します。

選択されているボタンは橙や赤色で点灯します。

メニュー表示の ON/OFF

いつでも MENU の **ON/OFF** を押すことで、NEXT 出力にメニューが表示されます。

ON の時はスイッチが橙色に点灯し、OFF の時は緑色に点灯します。

なお、電源起動時のメニュー表示は ON になっています。

4.ファイルの互換性について

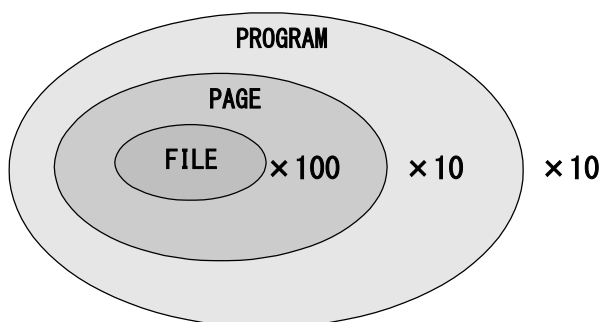
ST-9920HD、CF-9940HD、TW-9950HD/SD と CF-9945HD/SD のファイルには互換性があります。

MO ディスクでファイルの受け渡しが可能です。その際は 128MB～2.3GB の MO メディアをご使用ください。

CF-50D1 および CF-55 フォーマットの MO ディスクの読み出しとコピーが行えます。

5.ファイル構造について

専用操作パネルではファイルを下図の階層で管理しています。



CF-9945HD/SD ファイル構造概念図

10 個の PROGRAM スイッチの中に、それぞれ 10 個の PAGE があり、更にその中にそれぞれ 100 個の FILE があります。この階層は使用するドライブ毎に存在します。1 枚の MO の中にもこの様な階層が存在します。カテゴリに分けて自由にファイルを割り当ててください。

FILE のダイレクトスイッチは 50 個ですが **01 ORDER**、**51 ORDER** のスイッチを切り替えて 100 のファイルに対応しています。**01 ORDER** が橙色に点灯している時は、FILE のダイレクトスイッチが 1～50 のファイル番号に割り当てられ、**51 ORDER** が橙色に点灯している時は、FILE のダイレクトスイッチが 51～100 のファイル番号に割り当てられます。

なお、本機ではこの様な階層においてファイルを管理するにあたり、PROGRAM 番号を万の位、PAGE 番号を百、千の位、FILE 番号を一、十の位として通し番号を付けています。

例えばファイル番号が 020103 であれば PROGRAM 番号 2、PAGE 番号 1、FILE 番号 3 に割り当てられているものと判ります。NEXT 出力のメニュー上では各ファイルをこの 6 桁の数字で表しています。

6.トランジションについて

本機はファイル毎にトランジション属性を持たせることができます。

トランジション属性はPRESET 送出時、ファイル映像をNEXT からON AIRにチェンジした時に反映されます。また、黒み挿入付き PRESET 送出においては、黒画面からファイル映像に切り替わる時と、ファイル映像から黒画面に切り替わる時にその属性が反映されます。

トランジション属性の与え方は以下の3通りの方法があります。

- (1)書き込み時にトランジション属性を設定する。⇒『7.1 WRITE/INSERT WRITE』参照
- (2)FILE PROPERTY でトランジション属性を設定、または変更する。⇒『7.7 FILE PROPERTY』参照
- (3)PRESET 送出時にトランジション属性を変更する。⇒『8.2 PRESET 送出』参照

(1)、(2)の方法はHDD、またはMO にトランジション属性が記録されますが、(3)は一時的なもので送出を終えるとその属性は元に戻ります。本機で可能なトランジションの種類は次の通りです。

| | |
|--------------------|-----------------------------|
| SCROLL | 任意の方向にスクロールして切り替わります。 |
| SIDE WIPE | 任意の方向にワイプして切り替わります。 |
| CENTER WIPE | 縦、横方向のオープン、クローズタイプのワイプです。 |
| SLIDE | 任意の方向にスライドインして切り替わります。 |
| DISLV | クロスフェードして切り替わります。 |
| FADE | フェードアウトした直後フェードインして切り替わります。 |
| CUT | カットで切り替わります。 |
| 4:3 | 4:3 モードのトランジションを行います。 |

CUT 以外のトランジションは2~300 フレームの範囲でトランジションスピードを設定できます。

4:3 はHD(1080i)モードの横方向スクロール、横方向スライドのみ反映されます。その他のトランジションでは4:3スイッチが点灯していても変化はありません。

7.送出ポジションについて

本機はファイル毎にポジション属性を持たせることができます。ポジション値は水平方向、垂直方向に自由に設定できます。

(2ドット、2ライン単位)

ポジション属性の与え方は以下の2通りの方法があります。

- (1)FILE PROPERTYでポジション属性を設定、または変更する。⇒『7.7 FILE PROPERTY』参照
- (2)PRESET送出時にポジション属性を変更する。⇒『8.2 PRESET送出』参照

(1)の方法はHDD、またはMO にポジション属性が記録されますが、(2)は一時的なもので送出を終えるとその属性は元に戻ります。なお、FILL と KEY に異なるポジション値を与えることはできません。

6.システムモード

システムモードではテストパターンの表示や環境設定を行います。

どのモードからでも **SYS** を押すことでシステムモードに入り、スイッチは橙色に点灯し、再度 **SYS** を押すとスイッチは緑色に点灯し送出モードになります。

システムモードの設定値は内部メモリに保持され、電源再投入後も有効になります。

システムモードに入ると、メニューは下図のようになります。

| | |
|---------------|-------------|
| SYSTEM MODE | DRIVE : HDD |
| ⇒FTP TRANSFER | |
| SUPERIMPOSE | |
| SYSTEM PHASE | |
| READ CONFIG | |
| WRITE CONFIG | |
| SAFETY MARKER | |
| TEST PATTERN | |
| SCSI CONFIG | |
| LAN CONFIG | |
| FTP CONFIG | |
| FORMAT DRIVE | |

各項目で行える処理や環境設定の内容は次の通りです。

| | |
|---------------|---|
| FTP TRANSFER | FTP を使用してサーバーから vPNG ファイルを取得します。 |
| SUPERIMPOSE | FILL の ON AIR、または NEXT 出力のスーパーインポーズを設定します。 |
| SYSTEM PHASE | 90H 進相モードの切り替え(1080i フォーマット時)と、出力位相の調整を行います。 |
| READ CONFIG | KEY だけのファイルや FILL だけのファイルの読み出しに関する設定やダイレクトモードの設定を行います。 |
| WRITE CONFIG | 外部入力信号の CH1、CH2 を切り替えや操作を設定します。また、フレームまたはフィールドの取り込み設定や KEY および FILL の入力信号が無い場合の設定を行います。 |
| SAFETY MARKER | 16:9 および 4:3 のセーフティマーカの表示やエリアマーカの表示設定が行えます。 |
| TEST PATTERN | カラーバーなど5種類のテストパターンを表示します。 |
| SCSI CONFIG | 外部に SCSI 機器を増設する時の SCSI ID 番号を指定します。 |
| LAN CONFIG | LAN に接続する際の環境設定を行います。 |
| FTP CONFIG | FTP サーバーの ON/OFF やファイル受信時の設定を行えます。 |
| FORMAT DRIVE | FORMAT DRIVE 内蔵の HDD、MO ディスクドライブ、または外部 SCSI 機器を初期化します。 |

システムモードの共通操作方法

項目の選択には操作パネルの十字カーソル**1 を使用します。

項目の選択、決定は **CHG/EXEC**、キャンセルは **BACK** を使用します。

また、いつでも **SYS** を押すことによりシステムモードを終了します。

1 十字カーソルは操作パネル右中央にある **↑CLOSE、**→OPEN**、**↓CLOSE**、**←OPEN** スwitch の総称です。

1.FTP TRANSFER

CF-9945HD/SD の FTP クライアント機能を使用して外部 FTP サーバーから vPNG ファイルを取得します。FTP 受信についての詳細は『10.LAN』を参照してください。

2.SUPERIMPOSE

FILL の ON AIR、または NEXT 出力を LINE 信号にスーパーインポーズすることができます。この時の LINE 信号は FILL の入力を使用し、スーパー素材は記録済みのファイルを用います。

SUPERIMPOSE を選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE          DRIVE : HDD
  
SUPERIMPOSE SELECT
  
⇒ON AIR   : ON  OFF
NEXT      : ON  OFF
  
SET=CHG/EXEC
```

十字カーソルで ON AIR/NEXT、及び ON/OFF を選択し、CHG/EXEC で設定を登録、有効にします。



スーパーインポーズ機能を有効にすると、全ての出力がSYNCに対して3ライン遅れて出力されます。

3.SYSTEM PHASE

1080i モードでご使用の際、出力位相を使用環境に合わせて調整することができます。

SYSTEM MODE を選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE          DRIVE :HDD
  
SYSTEM PHASE
  
⇒MODE      : NOMAL  -90H
PHASE      : +0
  
SET=CHG/EXEC
```

十字カーソルで MODE、PHASE、NOMAL/-90H を、ROTARY SWITCH で PHASE の移動量を選択し、CHG/EXEC で設定を登録します。

MODE (525i フォーマット時では MODE 設定の表示はされません)

NOMAL :BBS の 4 ライン目と出力信号の 1 ライン目が同タイミングになります。3 値 SYNC の場合は同位相で出力します。

-90H :BBS の 4 ライン目と出力信号の 91 ライン目が同タイミングになります。3 値 SYNC の場合は 90 進んだ位相で出力します。(HD 時のみ有効です)

PHASE :同期信号に対して出力の位相を 1 ドット毎に±1H の範囲内で調整できます。

4.READ CONFIG

ファイルリード時の設定やダイレクトモード時の設定が行えます。READ CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。

| | |
|-------------------|-------------|
| SYSTEM MODE | DRIVE : HDD |
| READ CONFIG | |
| ⇒ FILL ONLY KEY : | BLACK WHITE |
| KEY ONLY FILL : | BLACK WHITE |
| DIRECT MODE : | MODE1 MODE2 |
| SET=CHG/EXEC | |

十字カーソルで FILL ONLY KEY/KEY ONLY FILL、及び BLACK/WHITE を選択し **CHG/EXEC** で設定を登録、有効にします。

FILL ONLY KEY

BLACK :KEY のみが記録されたファイルを送出する際 FILL 側に 0%の黒画面を表示します。

WHITE :KEY のみが記録されたファイルを送出する際 FILL 側に 100%の白画面を表示します。

KEY ONLY FILL

BLACK :FILL のみが記録されたファイルを送出する際 KEY 側に 0%の黒画面を表示します。

WHITE :FILL のみが記録されたファイルを送出する際 KEY 側に 100%の白画面を表示します。

DIRECT MODE

送出モードのダイレクト送出実行時の動作モードを設定します。

MODE1 :ON AIR/NEXT に選択されたファイルを表示します。

MODE2 :ON AIR に選択されたファイルを表示します。NEXT は選択されたファイルの次のファイルを表示します。

5.WRITE CONFIG

FILL/KEY 信号の入力チャンネルの切り替えや、パネル操作での入力チャンネル切り替えの禁止を行います。

また、入力チャンネルに信号が無いときの映像書き込み動作を設定します。

WRITE CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。

| | |
|--------------|-------------|
| SYSTEM MODE | DRIVE :HDD |
| WRITE CONFIG | |
| ⇒ INPUT : | CH1 CH2 |
| PANEL LOCK : | ON OFF |
| INTERLACE : | FRAME FIELD |
| NO SIGNAL : | BLACK WHITE |
| SET=CHG/EXEC | |

INPUT

FILL/KEY 入力信号 CH1 と CH2 の切り替えを設定します。SUPER IMPOSE および WRITE 時に反映されます。

PANEL LOCK

ON : 操作パネル上の **WRITE** での入力切り替えを禁止します。

OFF : 操作パネル上の **WRITE** で入力信号の切り替えが行えます。

INTERLACE

入力信号をフレームで取り込むかフィールドで取り込むかの設定を行います。

FRAME : 入力信号をフレームで取り込みます。

FIELD : 入力信号をフィールドで取り込みます。

NO SIGNAL

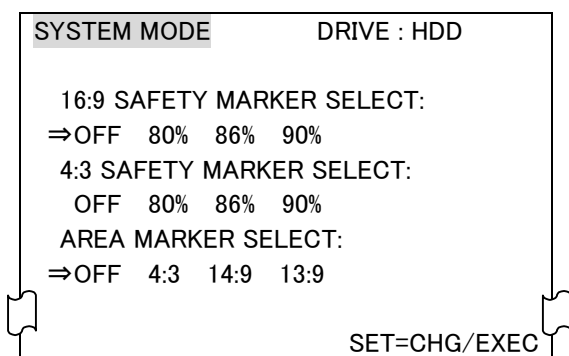
入力信号が無いときの動作を設定します。

BLACK : 入力チャンネルに信号が無いときに黒信号を書き込みます。

WHITE : 入力チャンネルに信号が無いときに白信号を書き込みます。

6.SAFETY MARKER

セーフティマーカールおよびエリアマーカールの設定ができます。SAFETY MARKER を選択すると下図のメニューが表示されます。システムが HD 時と SD 時で表示できるセーフティマーカールの種類が変わります。(SD 時では 16:9 SAFETY MARKER および AREA MARKER の表示はされません。)



16:9 SAFETY MARKER SELECT :

16:9 サイズのセーフティマーカールの表示を設定します。OFF/80%/86%/90%から選択を行います。

4:3 SAFETY MARKER SELECT :

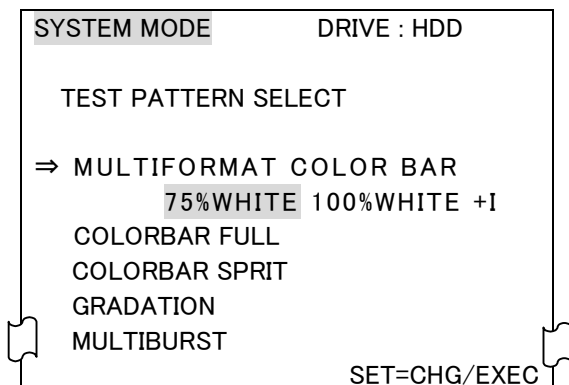
画面縦幅を基準に 4:3 サイズのセーフティマーカールの表示を設定します。OFF/80%/86%/90%から選択を行います。

AREA MARKER SELECT :

エリアマーカールの表示を設定します。OFF/4:3/16:9/13:9 から選択を行います。

7.TEST PATTERN

NEXT 出力にカラーバーなど5種類のテストパターンを表示できます。TEST PATTERNを選択すると下図のメニューが表示されます。



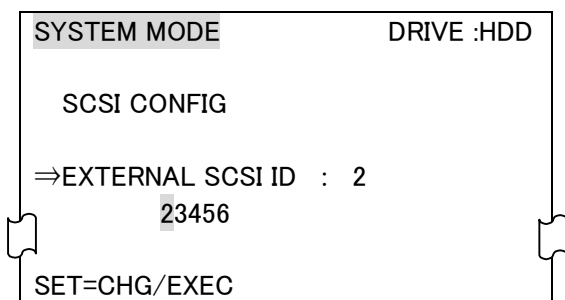
十字カーソルで FULL/SPRIT/GRADATION/MULTIBURST の何れかを選択し **CHG/EXEC** で NEXT 出力に描画します。各テストパターンの内容は以下の通りです。

| | |
|------------------------------|---|
| MULTIFORMAT COLOR BAR | FILL : ARIB STD-B28 に規定されているマルチフォーマットカラーバーです。 75%White/100%White/+I 信号を選択します。 KEY : 100%の白です。 |
| COLORBAR FULL | FILL : 75%のフル・カラーバーです。 KEY : 100%の白です。 |
| COLORBAR SPRIT | FILL : 75%のスプリット・カラーバーです。 KEY : 100%の白です。 |
| GRADATION | FILL : 水平方向のランプ波形です。 KEY : 水平方向のランプ波形です。 |
| MULTIBURST | FILL : マルチバーストです。 KEY : マルチバーストです。 |

8.SCSI CONFIG

外部に接続する SCSI 機器の ID 番号を指定します。ここで指定された SCSI 機器は操作パネル上の **EXT SCSI** が押されたとき有効となります。

SCSI CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。



十字カーソルで ID 番号を 2,3,4,5,6 の中から選択し **CHG/EXEC** で設定を登録、有効にします。また、外部に接続した SCSI 機器の ID 番号は必ず 2~6 の範囲で設定し、かつ複数接続する場合は各 SCSI 機器の ID 番号が重複しないよう注意してください。

9.LAN CONFIG

LAN に接続する際の環境設定を行います。

LAN CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE          DRIVE : HDD
  
LAN CONFIG
  
⇒IP ADDRESS       :  0.  0.  0.  0
SUBNET MASK       :  0.  0.  0.  0
GATEWAY          :  0.  0.  0.  0
  
ADJUST WITH ROTARY SWITCH
  
SET=CHG/EXEC
```

十字カーソルで IP ADDRESS/SUBNET MASK/GATEWAY、及び設定箇所を選択します。

数値入力はロータリースイッチを使用し、**CHG/EXEC** で設定を登録、有効にします。

また、接続先のネットワーク環境において同じアドレスが重複しないよう注意してください。

10.FTP CONFIG

本体の FTP サーバーに関する設定を行います。

FTP CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE          DRIVE :HDD
  
FTP CONFIG
  
FTP SERVER       :  ON OFF
  
⇒SELECT TYPE   :  CURRENT SELECT
DRIVE           :  0123456
PROG            :  0123456789
PAGE            :  0123456789
  
SET=CHG/EXEC
```

[FTP SERVER:]

本体の FTP サーバー機能の ON/OFF の設定を行います。ON に設定されているときに FTP コマンドを受信すると FTP モードに移行します。

[SELECT TYPE:]

FTP で受信したファイルの保存先を指定します。

十字カーソルで CURRENT/SELECT の中から選択し、**CHG/EXEC** を押します。

SELECT を選択した場合、さらに保存先の DRIVE/PROG/PAGE を選択します。

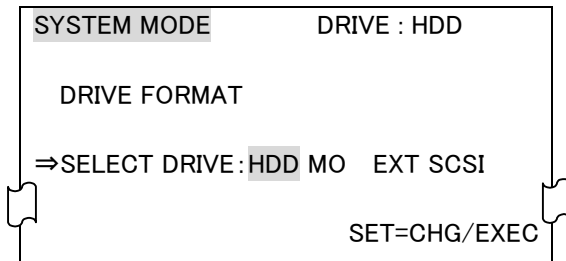
- CURRENT** 受信時、ダイレクトパネルに表示されているページにファイルを書き込みます。
- SELECT** 指定された DRIVE/PROG/PAGE にファイルを保存します。
- DRIVE** SELECT 時のドライブ番号を指定します。
- PROG** SELECT 時のプログラム番号を指定します。
- PAGE** SELECT 時のページ番号を指定します。

FTP受信についての詳細は『 10.6.FTP サーバー機能 』を参照してください

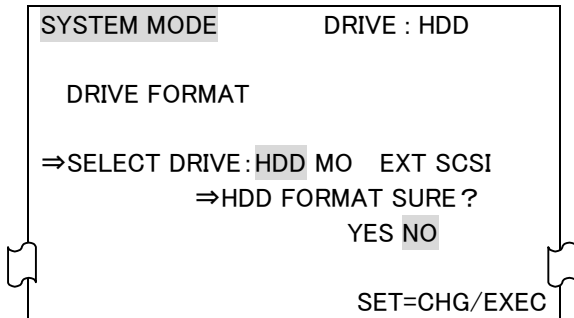
11.DRIVE FORMAT

内蔵の HDD、MO ディスクドライブ、あるいは外部 SCSI 機器の初期化を行います。

外部 SCSI 機器の初期化は(4)の SCSI CONFIG で指定されている機器がその対象となります。DRIVE FORMAT を選択すると下図のメニューが表示されます。



十字カーソルで初期化を行うドライブを HDD/MO/EXT SCSI の中から選択し、**CHG/EXEC** を押します。この時下図のメニューが表示され、操作の再確認を行います。



確認後、初期化を実行する場合は十字カーソルで YES を選択し、**CHG/EXEC** を押します。初期化が終了すると「FORMAT END」と表示されます。初期化を中止する場合は十字カーソルで NO を選択し、**CHG/EXEC** を押すか、または **SYS** を押してキャンセルします。

注意！ 初期化を行うと全てのファイルが消えてしまいます。その際は十分に注意してください。また、内蔵の HDD ディスクドライブの初期化に要する時間は約 3 分、MO ディスクドライブでは数秒程度です。外部 SCSI 機器の初期化には更に時間を必要とすることもあります。「FORMAT END」の表示が出るまでお待ちください。

7.編集モード

編集モードでは主にファイルの書きこみ、編集や属性の設定を行います。どのモードからでも **EDIT** を押すことで編集モードに入り、スイッチは橙色に点灯します。再度 **EDIT** を押すとスイッチは消灯し送出モードになります。

編集モードに入ると、メニューは下図のようになります。

| | |
|--------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| FILE PROPERTY | 15711/15885 |
| NEXT : 000000 | |
| POSITION : H 0 V 0 | |
| TRANSITION : CUT | |
| ROLL : | |

DRIVE HDD

現在使用しているデバイスを表示します。

15711/15885

残存記録枚数/最大記録枚数が表示されます。

(FILL および KEY で記録した場合で換算)

EDIT MODE / FILE PROPERTY

現在のモードを表示します。

編集モードで行われる内容は次の通りです。

| | |
|-------------------------|---|
| WRITE | ファイルの新規書きこみ、または FILL/KEY の追加、変更を行います。 |
| ROLL WRITE | ロールファイルの新規書き込みおよびページ追加を行います。 |
| COPY | ファイルのコピーおよび挿入コピーを行います。 |
| MOVE | ファイルの移動および挿入移動を行います。 |
| DELETE | ファイルの削除を行います。 |
| DELETE INHIBIT | ファイルの削除禁止設定を行います。 |
| INSERT | 挿入モードの ON/OFF の切り替えを行います。WRITE、ROLL WRITE、COPY、MOVE 時に有効になります。 |
| FILE PROPERTY**1 | ファイル単位で送出時のトランジション、ポジションの属性を与えます。ロールファイルのロール方向、ロールスピードの設定もここでを行います。 |

1 FILE PROPERTY は、EDIT** が橙色に点灯していて、その他の **WRITE**、**ROLL WRITE**、**COPY**、**DEL**、**MOVE**、**DEL INHI** が選択されていない状態(緑色の点灯)です。

編集モードの共通操作方法

項目の選択、及びキャンセルは **WRITE**、**ROLL WRITE**、**COPY**、**DEL**、**MOVE**、**DEL INHI** を使用します。各項目で処理を実行する際、常に誤操作防止のため確認操作を伴います。その際、処理の確認には **CONFIRM**、実行には **CHG/EXEC** を使用します。また、いつでも **EDIT** を押すことにより編集モードを終了できます。

INSERT

WRITE、ROLL WRITE、COPY、MOVE の実行時に **INSERT** を押す事によってスイッチが橙色に点灯し、挿入書き込みが行えるようになります。挿入によるファイル移動は同一ページ内のみで行われ、他のページのファイルが移動する事は有りません。ページに空き領域が無い場合、挿入は出来ません。PROGRAM および PEGE のコピーやムーブは INSERT することはできません。

| | | | | | | |
|---|---|--|---|--|---|--|
| A | B | | C | | D | |
|---|---|--|---|--|---|--|

↑ ここに挿入書き込み

| | | | | | | |
|----|---|---|---|--|---|--|
| 挿入 | A | B | C | | D | |
| | | | | | | |

1.WRITE / INSERT WRITE

ファイルの書き込みを行います。また、専用操作パネルではファイルを以下の階層で管理します。

10 PROGRAM > 10 PAGE > 100FILE

FILE のダイレクトスイッチは 50 個ですが **01 ORDER**、**51 ORDER** のスイッチを切り替えて 100 のファイルに対応しています。

01 ORDER が橙色に点灯している時は、FILE のダイレクトスイッチが 1～50 のファイル番号に割り当てられ、**51 ORDER** が橙色に点灯している時は、FILE のダイレクトスイッチが 51～100 のファイル番号に割り当てられます。

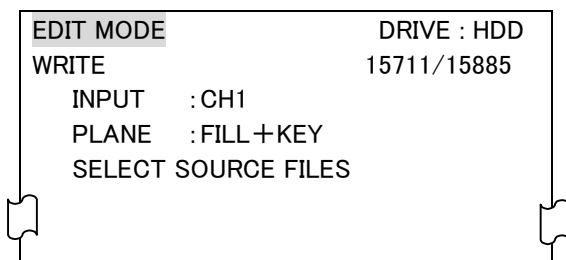
また、本機は書き込みの際、ファイル毎に送出時のトランジション属性を与えることができます。その属性は HDD、または MO に記録され、FILE PROPERTY で属性を変更しない限り有効で、ファイル コピーの際にもその属性はコピーされます。

WRITE 手順

(1)編集モードで **WRITE** を押すとスイッチは橙色に点灯し、入力のスルー映像が NEXT 出力に出力され、下図のメニューが表示されます。

INSERT を押すとスイッチは橙色に点灯し、挿入書き込み (INSERT WRITE) が行えるようになります。(挿入書き込みに関しては『7.編集モードの INSERT』を参照してください)

WRITE を押すことで入力信号を CH1 と CH2 に切り替える事ができます。その時メニューの CH1、CH2 の表示も切り替わります。システムメニューの INPUT SELECT で PANEL LOCK が ON の状態のときは切り替えが禁止されます。



(2)書き込み先の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

MO、外部 SCSI 機器をご使用の際は必ず本機でフォーマットされたものをご使用ください。

⇒フォーマットは『6.11.DRIVE FORMAT』を参照してください

(3)書き込み先のファイル番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、FILE の **01/51**～**50/100** の中からそれぞれ選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。緑色に点灯している登録済みのファイル番号を選択した場合は上書き書き込みになります。

(4)書きこむ素材の形式を **FILL**、**KEY** を押して選択します。また、**FILL** または **KEY** を1秒押し続ける事によってスイッチが橙色に点滅し、それぞれのプレーンに追加書き込みができます。

| 書きこむ素材の形式 | FILL | KEY |
|--------------|------|-----|
| KEY 付きのカラー素材 | 橙色 | 橙色 |
| FILL だけの素材 | 橙色 | |
| KEY だけの素材 | | 橙色 |
| FILL 追加書き込み | 点滅 | |
| KEY 追加書き込み | | 点滅 |

FILL だけ、あるいはKEY だけのファイルを送出する際、記録されていないプレーンに0%の黒画面、または100%の白画面を表示させることができます。その設定方法は『6.4 READ CONFIG』を参照してください。

(5)送出時のトランジション属性を設定します。

トランジションの種類を **SCROLL**、**SIDE WIPE**、**CENT WIPE**、**SLIDE**、**DISLV**、**FADE**、**CUT** の中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

トランジションのスピードは **TRANS SPEED** を選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリースイッチで設定します。その設定範囲は2~300フレームです。

この設定はファイルと共にHDD、またはMOに記録され、PRESET 送出時に反映されます。

後からトランジション属性を変更したい場合、及びトランジションについての詳細は『7.7.FILE PROPERTY』を参照してください。

(6)書き込み先のファイル番号をPROGRAMの **0**~**9**、PAGEの **0**~**9**、FILEの **01/51**~**50/100** の中からそれぞれ選択します。

選択されたスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。複数選択する事もできます。

既書き込まれたファイル番号は緑色に点灯しています。ここを選択して書き込むと上書きになります。

(7)書き込み先のファイル番号を選択したら **CONFIRM** スイッチを押します。この時、NEXT 出力のスルー映像はフリーズされ、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| WRITE | 15711/15885 |
| INPUT : CH2 | |
| PLANE : FILL+KEY | |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : 000025 | |
| WRITE SURE ? | |
| YES = CHG/EXEC | |
| NO = WRITE | |

(8)書き込み先のファイル番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC**で書き込みを実行します。

この時、書き込まれたファイル番号は緑色に点灯します。

ここでキャンセルする場合は**WRITE**または**EDIT**を押します。

書き込み先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。

前にあるファイルを削除し新たに書き込む場合は YES、書き込みを中断させたい場合は NO を選択します。また ALL を選択する事によりそれ以降のファイルはすべて上書きされます。

(9)書き込みを続ける場合は(3)~(8)の操作を繰り返します。終了する場合は**EDIT**を押します。

(10) **INSERT**を押す事によってスイッチが橙色に点灯し、挿入書き込み (INSERT WRITE) が行えるようになります。移動はページ内のみで行われ、他のページのファイルが移動する事は有りません。ページに空き領域が無い場合、挿入は出来ません。

2.ROLL WRITE

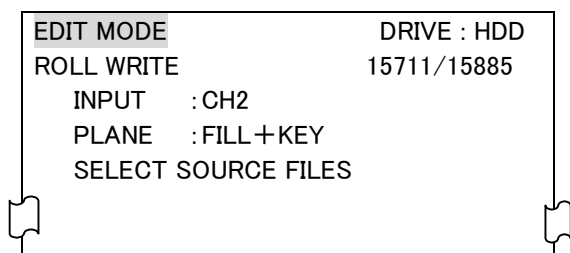
本機には複数の静止画を連続して書き込み、縦、または横方向に切れ目無くつないでロール送出する機能があります。ここではそのロールファイルの作成を行います。

また、通常の静止画ファイルと同様に書き込みの際、送出時のトランジション属性を与えることができます。この場合、ロールファイルの先頭の静止している映像のみトランジション効果を得ます。

ROLL WRITE 手順

(1)編集モードで **ROLL WRITE** を押すとスイッチは橙色に点灯し、入力のスルー映像が NEXT 出力に出力され、下図のメニューが表示されます。

ROLL WRITE を一度押すと CH1、もう一度押すと CH2 に切り替わります。その時メニューの CH1、CH2 の表示が切り替わります。



(2)書き込み先の DRIVE を **HDD**、**EXT SCSI** の中から選択します。

MO は転送速度が遅いため、ロール送出には使用できません。外部 SCSI 機器をご使用の際は HDD タイプのもので、必ず本機でフォーマットされたものをご使用ください。

⇒フォーマットは『6.11.DRIVE FORMAT』を参照してください。

(3)書き込み先のファイル番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、FILE の **01/51**～**50/100** の中からそれぞれ選択します。FILE の **01/51**～**50/100** は消灯している未登録のファイル番号および緑色に点滅をしているロール素材の番号を選択することができます。緑色に点滅をしているロール素材の番号を選択した場合はページの最後に素材が追加されます。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

(4)書き込む素材の形式を **FILL**、**KEY** を押して選択します。

| 書き込む素材の形式 | FILL | KEY |
|--------------|------|-----|
| KEY 付きのカラー素材 | 橙色 | 橙色 |
| FILL だけの素材 | 橙色 | 消灯 |
| KEY だけの素材 | 消灯 | 橙色 |

先頭ロールページの素材の形式が次のロールページ以降も反映されます。途中から変更を行う事は出来ません。

(5)送出時のトランジション及びロール属性を設定します。

トランジションの種類を **SCROLL**、**SIDE WIPE**、**CENT WIPE**、**SLIDE**、**DISLV**、**FADE**、**CUT** の中から選択し、そのトランジションの方向を十字カーソルで、スピードをロータリースイッチで設定します。トランジションのスピードは操作パネル上のディスプレイに表示され、設定範囲は 2～300 フレームです。

また **ROLL SPEED** スイッチを押す事により、ロールスピード、ロール方向を設定できます。

この設定はファイルと共に HDD、または MO に記録され、PRESET 送出時に反映されます。

後からトランジション及びロール属性を変更したい場合やトランジション、ロールについての詳細は『7.7 FILE PROPERTY』を参照してください。

(6)書き込み先のファイル番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、FILE の **01/51**～**50/100** の中からそれぞれ選択します。選択されたスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

ファイルが書き込まれていない場所(消灯)の選択で新規ロールが作成されます。

また、すでにあるロールファイルを選択した場合、ページの最後に新たなページが追加されます。

複数のファイルを選択する事は出来ません。

(7)書き込み先のファイル番号を選択したら **CONFIRM** を押します。この時、NEXT 出力のスルー映像はフリーズされ、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| ROLL WRITE | 15711/15885 |
| INPUT : CH1 | |
| PLANE : FILL+KEY | |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : 000025 | |
| ROLL WRITE SURE ? | |
| YES = CHG/EXEC | |
| NO = ROLL WRITE | |

(8)書き込み先のファイル番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC** で書き込みを実行します。

この時、書き込まれたファイル番号は緑色に点灯します。

ここでキャンセルする場合は **WRITE** または **EDIT** を押します。

(9)ロールでつながる次のファイルを書き込みます。(3)で書き込んだ緑色に点灯しているファイル番号を再度選択します。

この時スイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

(10)書き込み先のファイル番号を選択したら **CONFIRM** を押します。この時、NEXT 出力のスルー映像はフリーズされます。

ここでキャンセルする場合は **WRITE** または **EDIT** を押します。

(11)書き込み先のファイル番号が赤色に点滅し、**CHG/EXEC** で書き込みを実行します。

この時、書き込まれたファイル番号は再び緑色に点灯します。

(12)以上の操作で2画面分のロールファイルが作成され、終了する場合は **WRITE** または **EDIT** を押します。更にロール素材をつなぐ場合は(9)～(11)の操作を繰り返します。

ロール素材の連結枚数には特に制限はありません。ロールの方向、及びスピードの設定については『7.7 FILE PROPERTY』をご覧ください。

3.COPY

ファイルのコピーを行います。主に以下の3通りの方法があります。

- FILE COPY** コピー元、コピー先のファイル番号を選択してファイル単位でコピーします。複数ファイルの同時コピーや、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがるコピーもできます。
- PAGE COPY** コピー元、コピー先のページ番号を選択してページ単位一括コピーします。ドライブ間をまたがるコピーもできます。
- PROGRAM COPY** コピー元、コピー先のプログラム番号を選択してプログラム単位でコピーします。ドライブ間をまたがるコピーもできます。

これらのコピーはファイルのもつ属性もコピーされますが、**削除禁止の設定はコピーされません**。

(1) FILE COPY手順

- (1)編集モードで **COPY** を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| COPY | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |

- (2)コピー元の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

- (3)コピー元のファイル番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、PAGE の **0** ~ **9**、FILE の **01/51** ~ **50/100** の中からそれぞれ選択します。緑色に点灯している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

- (4)複数ファイルの同時コピーを行う場合、更にファイル番号を選択します。コピーの際、この時押した順番にコピーされます。また、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。

- (5)コピー元のファイル番号を選択したら **CONFIRM** を押します。コピー元のファイル番号は赤色に点滅し下図のメニューが表示されコピー先の選択になります。キャンセルする場合は **COPY** または **EDIT** を押します。

| | |
|--------------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| COPY | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : 000025、000026 | |
| SELECT DESTINATION FILES | |
| SELECT END = CONFIRM | |

(6)コピー先の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI**の中から選択します。

(7)コピー先のファイル番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、FILE の **01/51**～**50/100**の中からそれぞれ選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

(8)複数ファイルの同時コピーを行う場合、(4)で選択した数だけファイル番号を選択します。コピーの際、(4)で選択した順番が反映され、ここで押した順番にコピーされます。また、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。

(9)コピー先のファイル番号を選択したら **CONFIRM**を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

| | |
|--------------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| COPY | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : 000025、000026 | |
| SELECT DESTINATION FILES | |
| HDD : 000025、000026 | |
| COPY SURE ? | |
| YES = CHG/EXEC | |
| NO = COPY | |

(10)コピー元のファイル番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC**でファイルコピーを実行します。ここでキャンセルする場合は **COPY**または **EDIT**を押します。書き込み先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。前にあるファイルを削除し新たに書き込む場合は YES、書き込みを中断させたい場合は NOを選択します。また ALL を選択する事によりそれ以降のファイルはすべて上書きされます。

(11)コピーを続ける場合は(2)～(11)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT**を押します。

(2) PROGRAM COPY / PAGE COPY 手順

(1)編集モードで **COPY**を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| COPY | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |

(2)コピー元の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI**の中から選択します。

(3)PROGRAM COPY では、コピー元のプログラム番号を PROGRAM の **0**～**9**の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。

PAGE COPY では、コピー元のプログラム番号、ページ番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**の中から選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

- (4)コピー元のプログラム番号、またはページ番号を選択したら **CONFIRM** を押します。コピー元の番号は赤色に点滅し
下図のメニューが表示されコピー先の選択になります。キャンセルする場合は **COPY** または **EDIT** を押します。

```
EDIT MODE          DRIVE : HDD
COPY              15711/15885
SELECT SOURCE FILES
HDD : PAGE NO.4
SELECT DESTINATION FILES

SELECT END = CONFIRM
```

- (5)コピー先の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

- (6)PROGRAM COPY では、コピー先のプログラム番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号は選択できません。

PAGE COPY では、コピー先のプログラム番号、ページ番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、PAGE の **0** ~ **9**、の中から選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

- (7)コピー先のプログラム番号、またはページ番号を選択したら **CONFIRM** を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE          DRIVE : HDD
COPY              15711/15885
SELECT SOURCE FILES
HDD : 000025, 000026
SELECT DESTINATION FILES
HDD : 000025, 000026

COPY SURE ?
YES = CHG/EXEC
NO  = COPY
```

- (8)コピー元のプログラム番号、またはページ番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC** でファイルコピーを実行します。ここでキャンセルする場合は **COPY** または **EDIT** を押します。

書き込み先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。

前にあるファイルを削除し新たに書き込む場合は YES、書き込みを中断させたい場合は NO を選択します。また ALL を選択する事によりそれ以降のファイルはすべて上書きされます。

- (9)コピーを続ける場合は(2)~(9)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

4.MOVE

ファイルの移動を行います。主に以下の3通りの方法があります。

- FILE MOVE** 移動元、移動先のファイル番号を選択してファイル単位で移動します。複数ファイルの同時移動や、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる移動もできます。
- PAGE MOVE** 移動元、移動先のページ番号を選択してページ単位一括移動します。ドライブ間をまたがる移動もできます。
- PROGRAM MOVE** 移動元、移動先のプログラム番号を選択してプログラム単位で移動します。ドライブ間をまたがる移動もできます。

これらの移動はファイルのもつ属性も移動されます。削除禁止の設定がされているファイルは移動できません。

(1) FILE MOVE手順

- (1)編集モードで **MOVE** を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| MOVE | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |

- (2)移動元の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

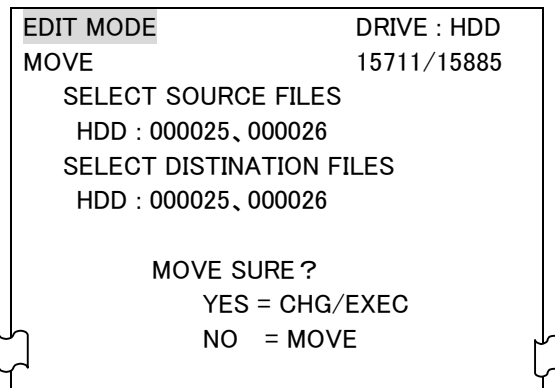
- (3)移動元のファイル番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、PAGE の **0** ~ **9**、FILE の **01/51** ~ **50/100** の中からそれぞれ選択します。緑色に点灯している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

- (4)複数ファイルの同時移動を行う場合、更にファイル番号を選択します。移動の際、この時押した順番に移動されます。また、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。

- (5)移動元のファイル番号を選択したら **CONFIRM** を押します。移動元のファイル番号は赤色に点滅し下図のメニューが表示され移動先の選択になります。キャンセルする場合は **COPY** または **EDIT** を押します。

| | |
|--------------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| MOVE | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : 000025、000026 | |
| SELECT DESTINATION FILES | |
| SELECT END = CONFIRM | |

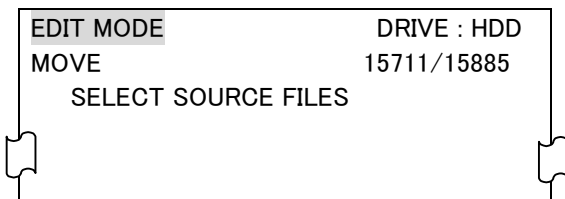
- (6)移動先の DRIVE を **HDD**、**MQ**、**EXT SCSI**の中から選択します。
- (7)移動先のファイル番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、FILE の **01/51**～**50/100**の中からそれぞれ選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。
- (8)複数ファイルの同時移動を行う場合、(4)で選択した数だけファイル番号を選択します。移動の際、(4)で選択した順番が反映され、ここで押した順番に移動されます。また、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。
- (9)移動先のファイル番号を選択したら **CONFIRM**を押します。この時、下図のメニューが表示されます。



- (10)移動元のファイル番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC**でファイルコピーを実行します。ここでキャンセルする場合は **COPY**または **EDIT**を押します。
- 書き込み先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。
- 前にあるファイルを削除し新たに書き込む場合は YES 、書き込みを中断させたい場合は NO を選択します。また ALL を選択する事によりそれ以降のファイルはすべて上書きされます。
- (11)移動を続ける場合は(2)～(11)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT**を押します。

(2)PROGRAM MOVE / PAGE MOVE 手順

- (1)編集モードで **MOVE**を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。



- (2)移動元の DRIVE を **HDD**、**MQ**、**EXT SCSI**の中から選択します。
- (3)PROGRAM MOVE では、コピー元のプログラム番号を PROGRAM の **0**～**9**、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。
- PAGE MOVE では、移動元のプログラム番号、ページ番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、の中から選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

- (4)移動元のプログラム番号、またはページ番号を選択したら **CONFIRM** を押します。移動元の番号は赤色に点滅し右上図のメニューが表示され移動先の選択になります。キャンセルする場合は **COPY** または **EDIT** を押します。

```
EDIT MODE          DRIVE : HDD
MOVE              15711/15885
SELECT SOURCE FILES
HDD : PAGE NO.4
SELECT DISTINATION FILES

SELECT END = CONFIRM
```

- (5)移動先の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

- (6)PROGRAM MOVE では、移動先のプログラム番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号は選択できません。

PAGE MOVE では、移動先のプログラム番号、ページ番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、PAGE の **0** ~ **9**、の中から選択します。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

- (7)移動先のプログラム番号、またはページ番号を選択したら **CONFIRM** を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE          DRIVE : HDD
MOVE              15711/15885
SELECT SOURCE FILES
HDD : PAGE NO.4
SELECT DISTINATION FILES
HDD : PAGE NO.5

MOVE SURE ?
YES = CHG/EXEC
NO  = MOVE
```

- (8)移動元のプログラム番号、またはページ番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC** でファイル移動を実行します。ここでキャンセルする場合は **COPY** または **EDIT** を押します。

書き込み先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。

前にあるファイルを削除し新たに書き込む場合は YES、書き込みを中断させたい場合は NO を選択します。また ALL を選択する事によりそれ以降のファイルはすべて上書きされます。

- (9)移動を続ける場合は(2)~(9)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

5.DELETE

ファイルの削除を行います。主に次の3通りの方法があります。

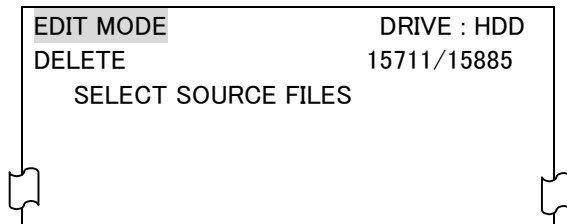
FILE DELETE 削除するファイル番号を選択してファイル単位で削除します。複数ファイルの同時削除もできます。

PAGE DELETE 削除するページ番号を選択してページ単位で一括削除します。

PROGRAM DELETE 削除するプログラム番号を選択してプログラム単位で一括削除します。

(1) FILE DELETE手順

(1)編集モードで **DELETE** を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

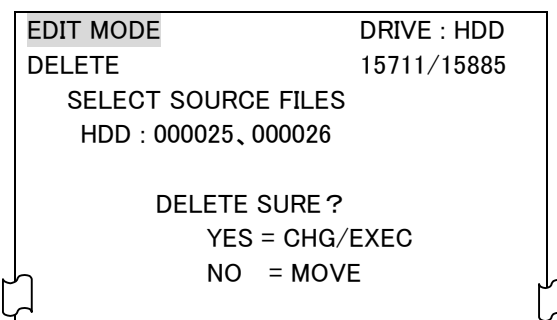


(2)削除する対象の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI**の中から選択します。

(3)削除するファイル番号を PROGRAM の **0**~**9**、PAGE の **0**~**9**、FILE の **01/51**~**50/100**の中からそれぞれ選択します。緑色に点灯している登録済みのファイル番号以外は選択できません。
選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

(4)複数ファイルの同時削除を行う場合、更にファイル番号を選択します。なお、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。

(5)削除するファイル番号を選択したら **CONFIRM** スwitchを押します。この時、下図のメニューが表示されます。



(6)削除するのファイル番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC**でファイルの削除を実行します。ここでキャンセルする場合は **DELETE** または **EDIT** を押します。

(7)削除を続ける場合は(3)~(6)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

(2) PROGRAM DELETE / PAGE DELETE手順

(1)編集モードで **DELETE** を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| DELETE | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |

(2)削除する対象の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI**の中から選択します。

(3)PROGRAM DELETE では、削除するプログラム番号を PROGRAM の **0**～**9**、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。

PAGE DELETE では、削除するプログラム番号、ページ番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム、またはページ番号以外は選択できません。

選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

(4)削除するプログラム番号、またはページ番号を選択したら **CONFIRM** を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| DELETE | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : PAGE NO.4 | |
| DELETE SURE ? | |
| YES = CHG/EXEC | |
| NO = MOVE | |

(5)削除するプログラム番号、またはページ番号が点滅し、**CHG/EXEC** で削除を実行します。

ここでキャンセルする場合は **DELETE** または **EDIT** を押します。

(6)削除を続ける場合は(3)～(5)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

6.DELETE INHIBIT

ファイル毎に、あるいはプログラム、ページ単位で削除禁止の設定を行います。この設定を行うと誤ってファイル削除の操作を行っても削除は実行されません。

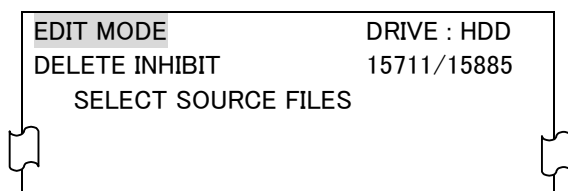
主に次の3通りの方法があります。

- FILE DELETE INHIBIT** ファイル単位で削除禁止設定、または解除を行います。複数ファイルの同時設定、解除もできます。
- PAGE DELETE INHIBIT** ページ単位で削除禁止設定、または解除を行います。
- PROGRAM DELETE INHIBIT** プログラム単位で削除禁止設定、または解除を行います。

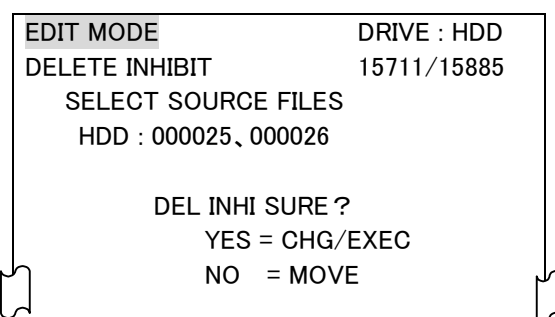
なお、削除禁止を行ったファイルを含むプログラム、あるいはページの削除を実行した場合、削除禁止を行ったファイルのみ削除されずに残ります。削除禁止を行ったページを含むプログラムの削除においても同じです。

(1) FILE DELETE INHIBIT手順

- (1)編集モードで **DEL INHI** を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。



- (2)削除禁止の設定を行う DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。
- (3)削除禁止を設定するファイル番号を PROGRAM の **0** ~ **9**、PAGE の **0** ~ **9**、FILE の **01/51** ~ **50/100** の中からそれぞれ選択します。緑色、または橙色に点灯している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。
橙色に点灯しているスイッチは既に削除禁止を設定したものです。ここで橙色のファイル番号を選択した場合、この後の操作で**削除禁止の設定が解除されます**。
- (4)複数ファイルの削除禁止を同時に行う場合、更にファイル番号を選択します。なお、ページ、プログラムあるいはドライブ間をまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。
- (5)削除禁止を設定するファイル番号を選択したら **CONFIRM** スイッチを押します。この時、下図のメニューが表示されます。



(6)削除禁止をするファイル番号は赤色に点滅し、**CHG/EXEC**でファイルの削除禁止を行います。

ファイル番号は緑色にから橙色に変わり、削除禁止の設定が行われたことを示します。逆に(3)で橙色に点灯した削除禁止のファイルを選択した場合はここで橙色にから緑色に変わり、削除禁止の設定が解除されたことを示します。ここでキャンセルする場合は **DELETE INHI**または **EDIT**を押します。

(7)削除禁止の設定を続ける場合は(3)~(6)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT**を押します。

(2)PROGRAM DELETE INHIBIT/ PAGE DELETE INHIBIT手順

(1)編集モードで **DEL INHI**を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| DELETE INHIBIT | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |

(2)削除禁止する対象の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI**の中から選択します。

(3)PROGRAM DELETE INHIBIT では、削除禁止するプログラム番号を PROGRAM の **0**~**9**、の中から選択します。

緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。

PAGE DELETE INHIBIT では、削除禁止するプログラム番号、ページ番号を PROGRAM の **0**~**9**、PAGE の **0**~**9**、の中から選択します。緑色、または橙色に点灯している登録済みのプログラム、またはページ番号以外は選択できません。

橙色に点灯しているスイッチは既に削除禁止を設定したものです。ここで橙色のファイル番号を選択した場合、この後の操作で**削除禁止の設定が解除されます**。

選択したスイッチは赤色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

(4)削除禁止を設定するプログラム番号、またはページ番号を選択したら **CONFIRM**スイッチを押します。この時、下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| DELETE INHIBIT | 15711/15885 |
| SELECT SOURCE FILES | |
| HDD : PAGE NO.4 | |
| DEL INHI SURE ? | |
| YES = CHG/EXEC | |
| NO = MOVE | |

(5)削除禁止するプログラム番号、またはページ番号が点滅し、**CHG/EXEC**で削除禁止を行います。

ここでキャンセルする場合は **DELETE INHI**または **EDIT**を押します。

(6)削除禁止の設定を続ける場合は(3)~(5)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT**を押します。

7.FILE PROPERTY

ファイル単位で送出時のトランジション、ポジションの属性を設定、変更します。また、ロールファイルのロール方向、ロール時間の設定もここでを行います。

なお、これらの属性は HDD、または MO に記録され、FILE PROPERTY で属性を変更しない限り有効で、ファイル コピーの際にもその属性はコピーされます。

(1) TRANSITION属性の設定手順

- (1)編集モードに入ると下図のメニューが表示されます。その他の **WRITE**、**ROLL WRITE**、**COPY**、**DEL**、**DEL INH** が選択されていない状態(緑色の点灯)です。

| | |
|----------------------------|-------------|
| EDIT MODE | DRIVE : HDD |
| FILE PROPERTY | 15711/15885 |
| NEXT : 000001 | |
| POSITION :: H 0 V 0 | |
| TRANSITION : CUT | |
| ROLL :: | |
| DATA SAVE = CHG/EXEC | |

- (2)トランジション属性を設定する対象の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

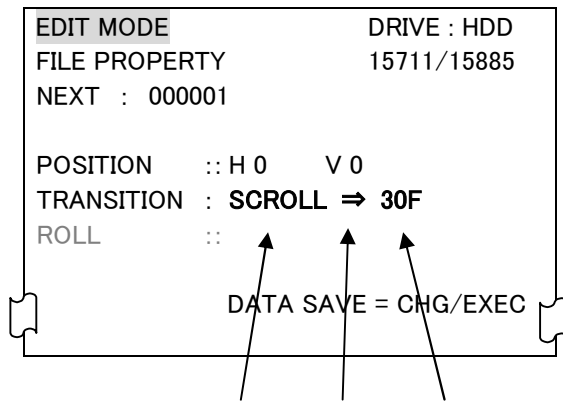
- (3)トランジション属性を設定するファイル番号を PROGRAM の **0**~**9**、PAGE の **0**~**9**、FILE の **01/51**~**50/100** の中からそれぞれ選択します。緑色に点灯している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは赤色に点滅し、ONAIR および NEXT にファイルが出力されます。

- (4)トランジションの種類を **SCROLL**、**SIDE WIPE**、**CENT WIPE**、**SLIDE**、**DISLV**、**FADE**、**CUT** の中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

4:3 を押すと 4:3 モードのトランジションを実行します。

トランジションのスピードは **TRANS SPEED** を選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリースイッチで設定します。その設定範囲は 2~300 フレームです。これらの設定内容はメニューで確認することができます。

****4:3 モードは HD(1080i)モードの横方向スクロール、横方向スライドのみ反映されます。その他のトランジションではスイッチが点灯していても変化はありません。**



トランジションの 種類 方向 スピード を表しています

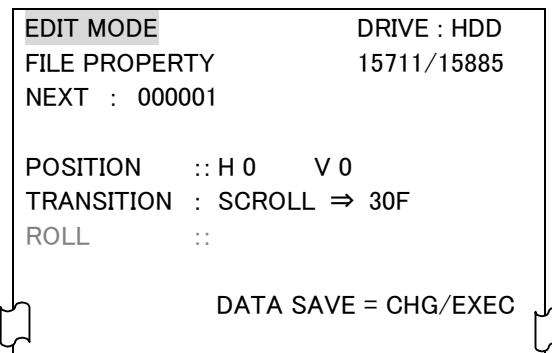
(5)トランジションの種類、方向、スピードを選択したら **CHG/EXEC** を押します。この設定はファイルと共にHDD、またはMOに記録され、PRESET 送出時に反映されます。

ここでキャンセルする場合は他のファイル番号、または **EDIT** を押します。

(6)トランジション属性の設定を続ける場合は(3)~(5)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

(2)POSITION属性の設定手順

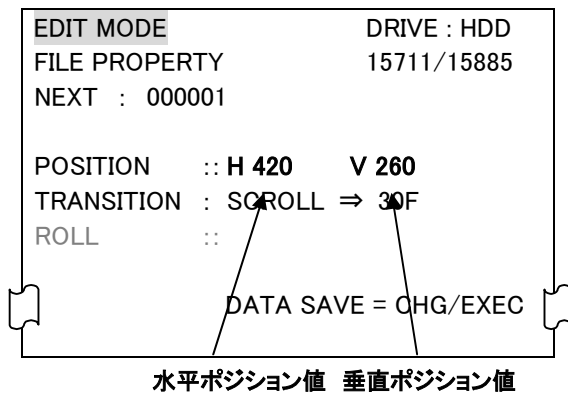
(1)編集モードに入ると下図のメニューが表示されます。その他の **WRITE**、**ROLL WRITE**、**COPY**、**DEL**、**DEL INH** が選択されていない状態(緑色の点灯)です。



(2)POSITION 属性を設定する対象の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

(3)POSITION 属性を設定するファイル番号を PROGRAM の **0**~**9**、PAGE の **0**~**9**、FILE の **01/51**~**50/100** の中からそれぞれ選択します。緑色に点灯している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは赤色に点滅し、ON AIR および NEXT にファイルが出力されます。

(4)水平方向のポジションを変更する場合は **H POSI** を、垂直方向のポジションを変更する場合は **V POSI** を選択し、橙色に点灯させます。表示位置をロータリースイッチで動かしながら ON AIR 出力や NEXT 出力で確認します。移動量は2ドット、2ライン単位で設定でき、操作パネル上のディスプレイに表示されます。これらの設定内容はメニューで確認する事ができます。



(5)ポジションの値を決定したら **CHG/EXEC** を押します。この設定はファイルと共に HDD、または MO に記録され、PRESET 送出時に反映されます。

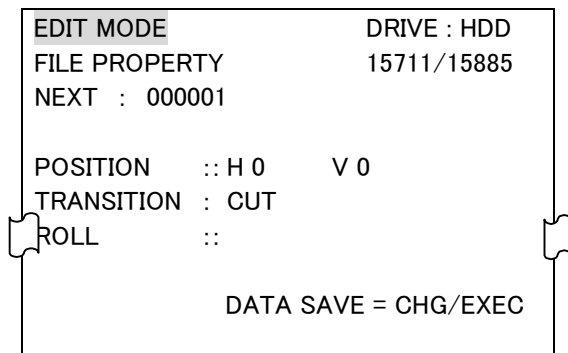
ここでキャンセルする場合は他のファイル番号、または **EDIT** を押します。

(6)POSITION 属性の設定を続ける場合は(3)~(5)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

(7)**H POSI**または**V POSI**を1秒押し続けることによりポジションの値が0に戻ります。

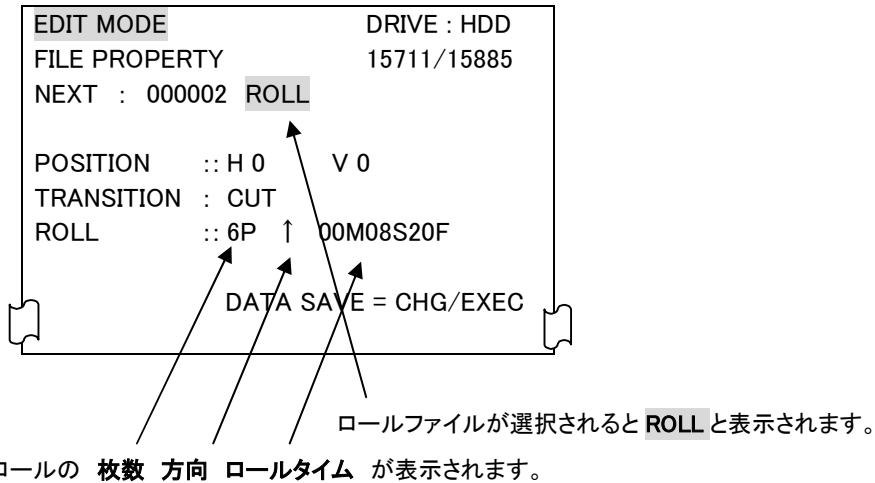
(3)ROLL FILEの属性の設定手順

(1)編集モードに入ると下図のメニューが表示されます。その他の **WRITE**、**ROLL WRITE**、**COPY**、**DEL**、**DEL INH** が選択されていない状態(緑色の点灯)です。



(2)ロールファイルの属性を設定する DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。

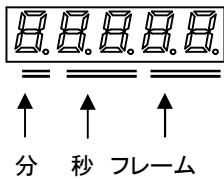
- (3) 設定するロールファイルの番号を PROGRAM の 0 ~ 9、PAGE の 0 ~ 9、FILE の 01/51 ~ 50/100 の中からそれぞれ選択します。緑色に点灯しているファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは赤色に点滅し、NEXT 出力にファイルが再生されます。DIRECT が点灯している時は ON AIR 出力にも再生されます。この時下図のメニューが表示されます。



- (4) ROLL SPEED を選択し、ロールタイムをロータリースイッチで設定します。

表示の単位は分(M)、秒(S)、フレーム(F)です。上図の場合、6 面で構成されたファイルを、下から上方向へ 8 秒 20 フレームかけてロールします。

専用操作パネル上のディスプレイにもトータルのロール時間が表示されます。



縦方向のロールを行うのに最適な時間では、ディスプレイ上の表示が緑色で表示されます。

また、ROLL SPEED を押しながらロータリースイッチを操作する事により最適な時間のままロール時間を変更する事ができます。

- (5) ロールの方向を十字カーソルで選択します。

- (6) ロールの方向、ロールタイムを選択したら CHG/EXEC を押します。この設定はファイルと共に HDD、または MO に記録されます。

ここでキャンセルする場合は他のファイル番号、または EDIT を押します。

- (7) トランジション属性の設定を続ける場合は(3)~(6)の操作を繰り返します。終了する場合は EDIT を押します。

補足 ロールファイルも通常の静止画ファイルと同様に FILE PROPERTY で、送出時のトランジション属性、ポジション属性を設定することができます。この場合のトランジションは、ロールファイルの先頭の静止している映像のみトランジション効果を得ます。上記の TRANSITION 属性の設定手順、POSITION 属性の設定手順を参照してください。

8.送出モード

送出モードではファイルの読み出しを行います。

SYS、**EDIT**の両方のスイッチが消灯している状態が送出モードになります。**SYS**、**EDIT**のどちらかのスイッチが点灯している場合、点灯している方のスイッチを押して消灯させます。

送出モードに入ると、メニューは下図のようになります。

| | |
|---|--|
| <pre> READ MODE DRIVE : HDD ON AIR : 000001 F/K ROLL NEXT : 000002 F/K POSITION :: H 0 V 0 TRANSITION : CUT ROLL :: </pre> | <p>DRIVE 選択されているドライブ</p> <p>ON AIR ON AIR に出力されているファイル番号等 **1</p> <p>NEXT NEXT に出力されているファイル番号等 **1</p> <p>POSITION NEXT に出力されているファイルのポジション属性</p> <p>TRANSITION NEXT に出力されているファイルのトランジション属性</p> <p>ROLL NEXT に出力されているファイルのロール属性</p> |
|---|--|

**1 ファイル番号の表記については『5.5 ファイルの構造について』を参照してください

送出には次の3形式があり、用途に合わせて選択できます。

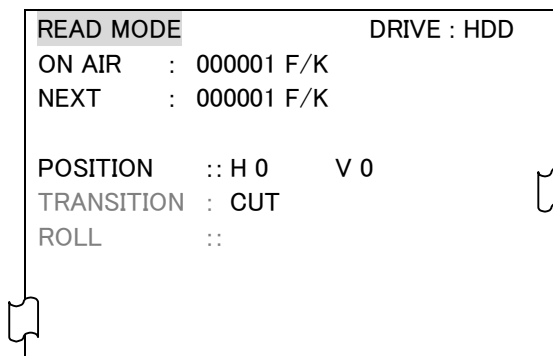
| 送出形式 | 設定方法 | 基本動作 |
|-------------------|---|---|
| DIRECT 送出 | 送出モードにて DIRECT を点灯させる。 | <p>MODE1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した番号のファイルを直接 ON AIR、NEXT に送出します。 ・CHG/EXECで後続のファイルをトランジション無しで ON AIR、NEXT に送出します。 ・ON AIR、NEXT 双方の映像は同じで、選択されているファイル番号は赤く点灯します。 <p>MODE2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した番号のファイルを直接 ON AIR に送出します。NEXT は選択された次のファイルを表示します ・CHG/EXECで NEXT のファイルをトランジション無しで ON AIR、に送出し NEXT は次のファイルを表示します。 ・ON AIR のファイル番号は赤く点灯し NEXT のファイル番号は赤く点滅します。 |
| PRESET 送出 | 送出モードにて PRESET を点灯、 BLACK を消灯させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・選択した番号のファイルは一旦 NEXT に読み出され、CHG/EXECで ON AIR にトランジションを伴い送出されます。この時 NEXT には後続のファイルが読み出されます。 ・ON AIR を示すファイル番号は赤色に点灯し、NEXT を示すファイル番号は赤色に点滅します。 |
| 黒み挿入 PRESET 送出 | 送出モードにて PRESET 、 BLACK を点灯させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル間に黒画面を挿入します。 ・選択した番号のファイルは一旦 NEXT に読み出され、CHG/EXECで ON AIR にトランジションを伴い送出されます。この時 NEXT には黒画面が準備され、次のCHG/EXECで ON AIR にトランジションを伴い黒画面が送出されます。NEXT には後続のファイルが読み出されます。 ・ファイルのトランジション属性は、黒画面からファイル映像に切り替わる時と、ファイル映像から黒画面に切り替わる時に反映されます。 |

1.DIRECT 送出

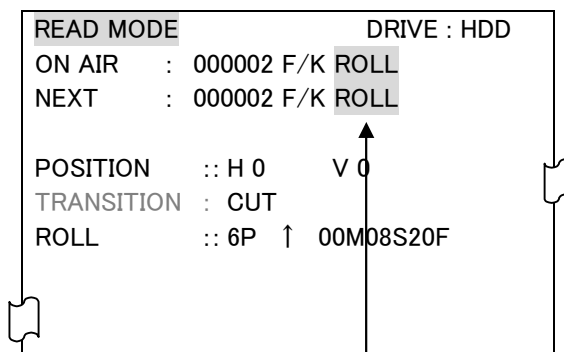
DIRECT 送出には選択した番号のファイルを直接 ON AIR、NEXT に送出し常に ON AIR、NEXT 双方の映像は同じ MODE1 と、選択したファイルを ON AIR に送出し NEXT には次のファイルを表示する MODE2 があります。各モードの切り替えはシステムメニューの READ CONFIG の DIRECT MODE できりかえることができます。[CHG/EXEC]で後続のファイルをトランジション無しで送出します。後続のファイルが存在しない場合、自動的に次のページのファイルに移ります。9 ページ目の最後のファイルまで読み出すと次の PROGRAM には移らず止まります。

DIRECT 送出手順

- (1)送出モードで [DIRECT] を押します。スイッチは橙色に点灯します。
- (2)送出元の DRIVE を [HDD]、[MO]、[EXT SCSI] の中から選択します。
MO、外部 SCSI 機器をご使用の際は必ず本機でフォーマットされたものをご使用ください。
⇒フォーマットは『6.11DRIVE FORMAT』を参照してください。
- (3)送出元のファイル番号を PROGRAM の [0]～[9]、PAGE の [0]～[9]、FILE の [01/51]～[50/100] の中からそれぞれ選択します。ここで選択できる番号は既に登録済みの緑色に点灯しているスイッチです。選択した番号は赤色に点灯し、ON AIR、NEXT にそのファイルが送出されていることを示します。この時下図のメニューが表示されます。



また、選択した番号がロールファイルの場合、下図のメニューが表示されます。



ロールファイルが選択されると ROLL と表示されます。

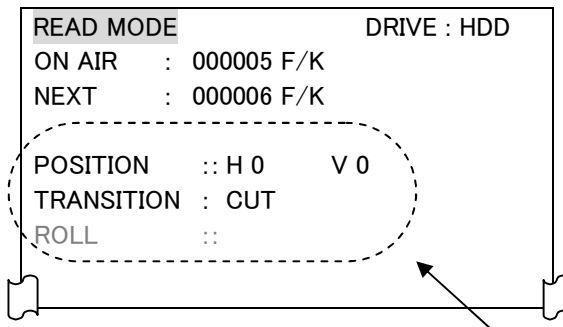
- (4)送るファイルは個々のポジション属性が反映されていますが、ここで一時的に変更することもできます。水平方向のポジションを変更する場合は **HPOSI** を、垂直方向のポジションを変更する場合は **VPOSI** を選択し、橙色に点灯させます。表示位置はロータリースイッチを動かしながら NEXT 出力、あるいは ON AIR 出力で確認します。設定範囲は任意で、2 ドット、2 ライン単位です。
- (5)選択した番号がロールファイルの場合、緑色に点滅している **START** を押すとロールを開始、**STOP** で停止します。ここで **START** を押すと停止した位置から再びロールを始めます。更に、停止した状態で **STOP** を押すとロールファイルの先頭位置でスタンバイ状態となります。また、ここで一時的にロールタイムの設定を変更することもできます。**ROLL SPEED** を選択し、ロータリースイッチで変更します。なお、ロール中の変更も可能です。**ROLL SPEED** を押しながらロータリースイッチを操作する事により最適な時間のままロール時間を変更する事ができます。
- (6)後続のファイルを続けて送る時は **CHG/EXEC** を押します。任意のファイルを送る場合は(3)~(5)の操作を繰り返します。

2.PRESET 送出

選択した番号のファイルは一旦 NEXT に読み出され、**CHG/EXEC** で ON AIR にトランジションを伴い送出されます。この時 NEXT には後続のファイルが読み出されます。後続のファイルが存在しない場合、自動的に次のページのファイルに移ります。9 ページ目の最後のファイルまで読み出すと次の PROGRAM には移らず止まります。

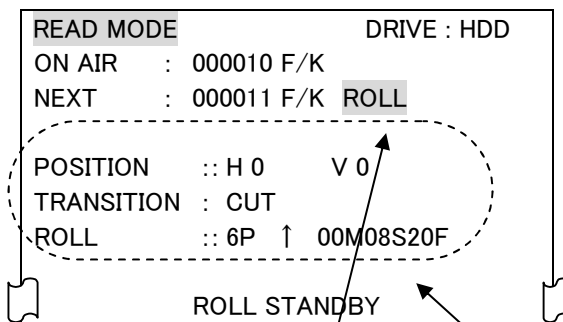
ON AIR に送出されているファイル番号は赤色に点灯し、NEXT に読み出されているファイル番号は赤色に点滅します。

- (1)送出モードで **PRESET** を押し、橙色に点灯させます。この時 **BLACK** を消灯した状態にします。
- (2)送出元の DRIVE を **HDD**、**MO**、**EXT SCSI** の中から選択します。MO、外部 SCSI 機器をご使用の際は必ず本機でフォーマットされたものをご使用ください。
⇒フォーマットは『6.11DRIVE FORMAT』を参照してください。
- (3)送出元のファイル番号を PROGRAM の **0**～**9**、PAGE の **0**～**9**、FILE の **01/51**～**50/100** の中からそれぞれ選択します。ここで選択できる番号は既に登録済みの緑色に点灯しているスイッチです。選択した番号は赤色に点滅し、NEXT にそのファイルが送出されていることを示します。この時下図のメニューが表示されます。



NEXT に出力されている 000006 番のファイルの属性

また、選択した番号がロールファイルの場合、下図のメニューが表示されます。



NEXT に出力されている 000011 番のファイルの属性。

ロールファイルは **ROLL** と表示されます。

(4)送出するファイルは個々のトランジション属性、ポジション属性が反映されていますが、ここで一時的に変更することもできます。

[トランジション属性の変更]

トランジションの種類を **SCROLL**、**SIDE WIPE**、**CENT WIPE**、**SLIDE**、**DISLV**、**FADE**、**CUT**の中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

トランジションのスピードは **TRANS SPEED**を選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリースイッチで設定します。その設定範囲は2～300フレームです。

[ポジション属性の変更]

水平方向のポジションを変更する場合は **HPOSI**を、垂直方向のポジションを変更する場合は **VPOS**を選択し、橙色に点灯させます。表示位置はロータリースイッチを動かしながらNEXTで確認します。

設定範囲は任意で、2ドット、2ライン単位です。

これらの設定内容はメニューで確認することができます。

(5)選択した番号がロールファイルの場合、緑色に点滅している **START**を押すとロールを開始、**STOP**で停止します。ここで **START**を押すと停止した位置から再びロールを始めます。更に、停止した状態で **STOP**を押すとロールファイルの先頭位置でスタンバイ状態となります。また、ここで一時的にロールタイムの設定を変更することもできます。**ROLL SPEED**を選択し、ロータリースイッチで変更します。なお、ロール中の変更も可能です。**ROLL SPEED**を押しながらロータリースイッチを操作する事により最適な時間のままロール時間を変更する事ができます。

(6)**CHG/EXEC**を押すとNEXTに出力されているファイルがON AIRにトランジションを伴い送出されます。この時NEXTには後続のファイルが読み出されます。

(7)続けてNEXTに出力されているファイルを送出する時は **CHG/EXEC**を押します。任意のファイルを送出する場合は(3)～(6)の操作を繰り返します。

3.黒味挿入 PRESET 送出

ファイル間に黒画面を挿入します。

選択した番号のファイルは一旦 NEXT に読み出され、[CHG/EXEC]で ON AIR にトランジションを伴い送出されます。この時 NEXT には黒画面が準備され、次の [CHG/EXEC]で ON AIR にトランジションを伴い黒画面が送出されます。NEXT には後続のファイルが読み出されます。後続のファイルが存在しない場合、自動的に次のページのファイルに移ります。9 ページ目の最後のファイルまで読み出すと次の PROGRAM には移らず止まります。

ファイルのトランジション属性は、黒画面からファイル映像に切り替わる時と、ファイル映像から黒画面に切り替わる時に反映されます。

ON AIR に送出されているファイル番号は赤色に点灯し、NEXT に読み出されているファイル番号は赤色に点滅します。

黒み挿入 PRESET 送出手順

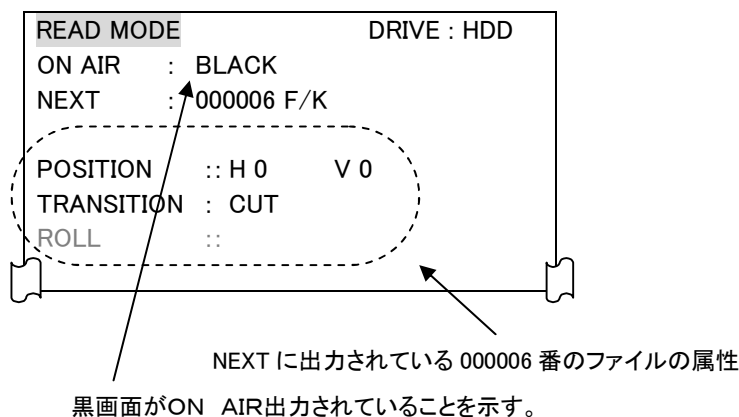
(1)送出モードで [PRESET]、[BLACK] を押し、両方橙色に点灯させます。

(2)送出元の DRIVE を [HDD]、[MO]、[EXT SCSI]の中から選択します。

MO、外部 SCSI 機器をご使用の際は必ず本機でフォーマットされたものをご使用ください。

⇒フォーマットは『8.5(6)DRIVE FORMAT』を参照してください

(3)送出元のファイル番号を PROGRAM の [0]～[9]、PAGE の [0]～[9]、FILE の [01/51]～[50/100]の中からそれぞれ選択します。ここで選択できる番号は既に登録済みの緑色に点灯しているスイッチです。選択した番号は赤色に点滅し、NEXT にそのファイルが送出されていることを示します。この時次図のメニューが表示されます。



(4)送出するファイルは個々のトランジション属性、ポジション属性が反映されていますが、ここで一時的に変更することもできます。

[トランジション属性の変更]

トランジションの種類を [SCROLL]、[SIDE WIPE]、[CENT WIPE]、[SLIDE]、[DISLV]、[FADE]、[CUT]の中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

トランジションのスピードは [TRANS SPEED]を選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリースイッチで設定します。その設定範囲は 2～300 フレームです。

[ポジション属性の変更]

水平方向のポジションを変更する場合は **HPOSI** を、垂直方向のポジションを変更する場合は **VPOSI** を選択し、橙色に点灯させます。表示位置はロータリースイッチを動かしながら NEXT で確認します。設定範囲は任意で、2ドット、2ライン単位です。

これらの設定内容はメニューで確認することができます。

(5) 選択した番号がロールファイルの場合、緑色に点滅している **START** を押すとロールを開始、**STOP** で停止します。ここで **START** を押すと停止した位置から再びロールを始めます。更に、停止した状態で **STOP** を押すとロールファイルの先頭位置でスタンバイ状態となります。

また、ここで一時的にロールタイムの設定を変更することもできます。**ROLL SPEED** を選択し、ロータリースイッチで変更します。なお、ロール中の変更も可能です。

(6) **CHG/EXEC** を押すと NEXT に出力されているファイルが ON AIR にトランジションを伴い送出されます。この時 NEXT には黒画面が出力されます。

(7) **CHG/EXEC** を押すと NEXT に出力されている黒画面が ON AIR にトランジションを伴い送出されます。この時のトランジション属性は(6)のファイルの持つ属性が反映されますが、(4)の要領で変更する事も可能です。NEXT には後続のファイルが読み出されます。

(8) 続けて NEXT に出力されているファイルを送出する時は **CHG/EXEC** を押します。任意のファイルを送出する場合は(3)～(7)の操作を繰返します。

9.MO メディア

本体正面の MO ドライブは、128MB～2.3GB の MO メディアを使用できます。PC 互換のある”FAT16 フォーマット”と弊社 SD カラーファイル装置 CF-50D1 および CF-55 との互換がある”CF-50D1 フォーマット”を使用することができます。CF-50D1 フォーマットはファイルの読み込みのみの対応となります。

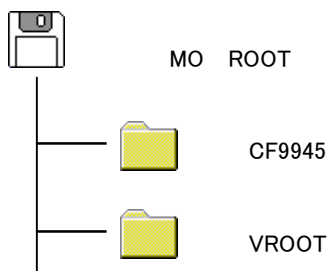
1.FAT16 フォーマット

PC 互換のあるフォーマットです。本体の SYSTEM MODE で FORMAT された MO ディスクまたは、PC で FAT16(**1)形式でフォーマットされた MO ディスクを使用する事が出来ます。FAT16 フォーマットで保存されたファイルは vPNG 形式で保存されます。FAT16 フォーマットは最大2GBまで使用できます。



****1** PC でフォーマットを行う場合、MO ディスクのフォーマット形式を FAT16 またはその互換のあるフォーマットが使用できるフォーマットで必ず行ってください。FAT32 形式のフォーマットでは使用することが出来ません。

CF-9945HD/SD で使用される MO ディスクのディレクトリ構成は以下の通りです。



[CF9945]

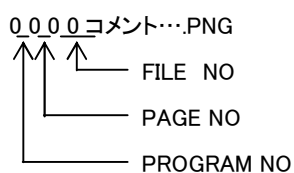
CF-9945HD/SD で使用される INDEX.DAT ファイル、CF_EVENT.DAT ファイルが保存されます。

CF9945 フォルダが無い場合は新規に作成されます。

[VROOT]

FAT16 フォーマットにファイルを書き込むとこのフォルダにvPNG 形式の画像ファイルが保存されます。MO ディスクにファイルの読み書きを行うときはこのフォルダがファイル検索の対象になります。このフォルダ以外のファイルを認識する事は出来ません。

保存されたファイルは 4 桁の数字で管理されます。4 桁目の番号は PROGRAM 番号になります。次の 3 桁目の番号は PAGE 番号になります。残りの 2 桁は FILE 番号になります。4 桁後のファイル名に関しては全てコメントとして扱われます。拡張子は.PNG です。VROOT フォルダが無い場合、自動的に作成されます。



2.CF-50D1 フォーマット

弊社 SD カラーファイル装置 CF-50D1 および CF-55 との互換があるフォーマットです。本機で CF-50D1 フォーマットを使用する場合はファイルの読み込みのみの対応となります。

10.LAN

1.概要

CF-9945HD/SD は FTP サーバー、クライアント機能があります。

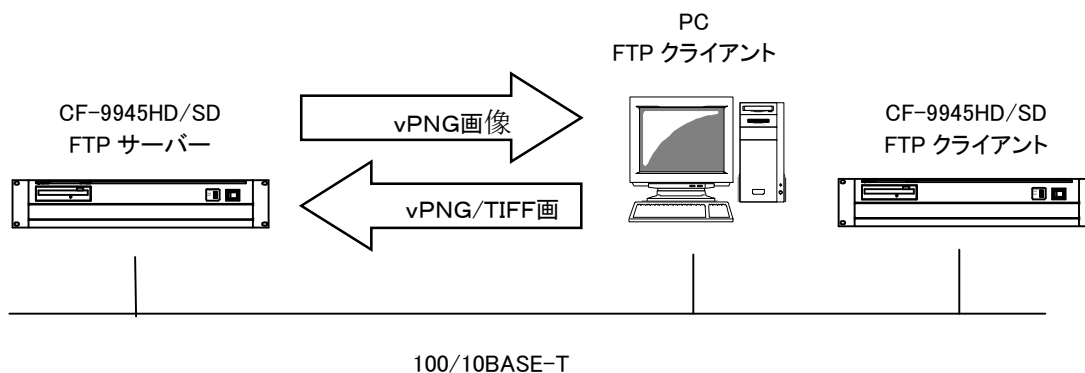
FTP サーバー機能は、作画機等で作成された vPNG、TIFF、TARGA 形式の画像ファイルを PC 等の FTP クライアントから FTP プロトコルを使用して CF-9945HD/SD に転送し保存する事や、CF-9945HD/SD 内に保存されているファイルを vPNG ファイルとして取り出す事ができます。

また、FTP クライアント機能は、他の CF-9945HD/SD のファイルや PC 等の FTP サーバーにある vPNG、TIFF、TARGA ファイルを取得し保存する事が出来ます。

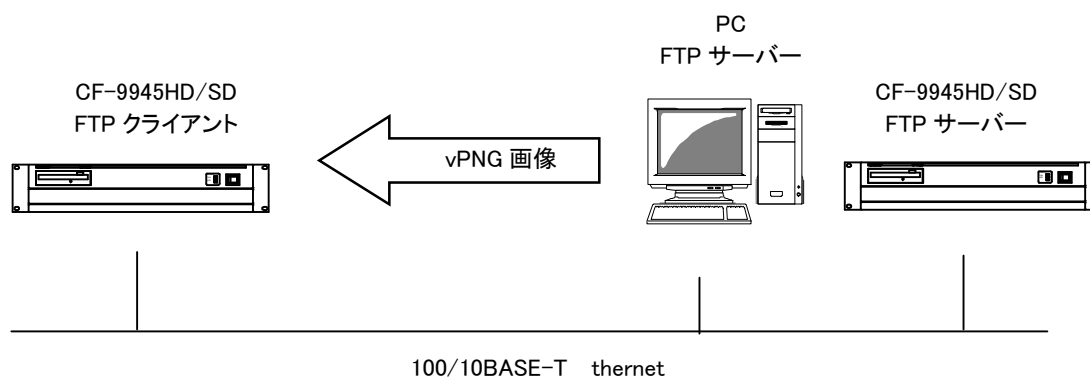
CF-9945HD/SD の FTP サーバーおよびクライアントは指定形式以外の画像を転送する事はできません。

2.接続

・FTP サーバーとしてのシステム接続例 (CF-9945HD/SD FTP クライアントからは vPNG の受信のみ可)



・FTP クライアントとしてのシステム接続例



3.ネットワーク設定

(1)LAN CONFIG

CF-9945HD/SD を LAN に接続する際の環境設定を行います。

SYSTEM メニューから LAN CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。

| | |
|---------------------------|--------------|
| SYSTEM MODE | DRIVE : HDD |
| LAN CONFIG | |
| ⇒IP ADDRESS | : 0. 0. 0. 0 |
| SUBNET MASK | : 0. 0. 0. 0 |
| GATEWAY | : 0. 0. 0. 0 |
| ADJUST WITH ROTARY SWITCH | |
| SET=CHG/EXEC | |

ネットワーク管理者から与えられた各アドレスを CF-9945HD/SD に設定します。十字カーソルで IP ADDRESS/SUBNET MASK/GATEWAY、及び設定箇所を選択します。数値入力にはロータリースイッチを使用し、**CHG/EXEC** で設定を登録、有効にします。また、接続先のネットワーク環境において同じアドレスが重複しないよう注意してください。

IP ADDRESS IP ネットワークに接続されたコンピュータ 1 台 1 台に割り振られた識別番号です。

SUBNETMASK ネットワークを識別するために使用する数値です。

GATEWAY GATEWAY の IP ADDRESS を入力します。

GATEWAY を使用しない場合 0, 0, 0, 0 を入力します。

CF-9945HD/SD を再起動させる事により各アドレスが反映されます。

PC 側のネットワーク設定は PC 付属の取扱説明書を参照してください。

(2)FTP CONFIG

FTP サーバー 受信後のファイル保存先を指定します。
FTP CONFIG を選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE          DRIVE : HDD
  
FTP CONFIG
  
FTP SERVER : ON OFF
  
⇒SELECT TYPE : CURRENT SELECT
DRIVE : 0123456
PROG : 0123456789
PAGE : 0123456789
  
SET=CHG/EXEC
```

[FTP SERVER:]

本体の FTP サーバー機能の ON/OFF の設定を行います。ON に設定されているときに FTP コマンドを受信すると FTP モードに移行します。

[SELECT TYPE:]

FTP で受信したファイルの保存先を指定します。

十字カーソルで CURRENT/SELECT の中から選択し、**CHG/EXEC** を押します。

SELECT を選択した場合、さらに保存先の DRIVE/PROG/PAGE を選択します。

| | |
|----------------|--|
| CURRENT | FTP サーバー受信時、パネルに表示されているページにファイルを書き込みます。 |
| SELECT | FTP サーバー受信時、指定された DRIVE/PROG/PAGE にファイルを保存します。 |
| DRIVE | SELECT 時のドライブ番号を指定します。 |
| PROG | SELECT 時のプログラム番号を指定します。 |
| PAGE | SELECT 時のページ番号を指定します。 |

4.ネットワーク接続の確認

CF-9945HD/SD と PC クライアントが正常にネットワークで接続されているかを PING コマンドで確認します。

ここでは仮に CF-9945HD/SD の IP ADDRESS を 192.168.1.10 とします。

CF-9945HD/SD の電源が入っている事を確認してください。

PC のスタートメニューからコマンドプロンプトを起動します。

コマンドラインから “ping 192.168.1.10” を入力し以下のメッセージが表示されるのを確認してください。

```
C:\>ping 192.168. 1.10

Pinging 192.168. 1.10 with 32 bytes of
data :

Reply from 192.168. 1.10: bytes=32
time<10ms TTL=128
Reply from 192.168. 1.10: bytes=32
time<10ms TTL=128
Reply from 192.168. 1.10: bytes=32
time<10ms TTL=128
```

“Request time out”のメッセージが表示された場合、PC クライアントから接続が正常に行えていません。ケーブルの接続、CF-9945HD/SD 及び PC クライアントのネットワーク設定を確認してください。

また、オペレーティングシステムのバージョンにより表示が異なる事があります。

5.転送ファイル仕様

(1)TIFFファイル

TIFF ファイルは FTP サーバー機能時のみ受信できます。

[仕様]

- 最大画像サイズ : 1920 × 1080
- フォーマット : Intel (IBM) または Motorola(Macintosh) 形式
- 圧縮方式 : 非圧縮
- カラー : RGB α 各 8 ビット
- RGBの配置順序 : RGBKRGBK...
- 拡張子 : TIF、tif

(2)TARGAファイル

TARGA ファイルは FTP サーバー機能時のみ受信できます。

[仕様]

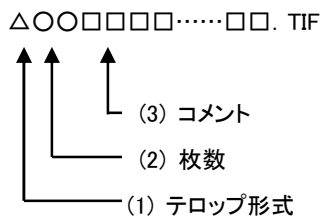
- 最大画像サイズ : 1920 × 1080
- 圧縮方式 : 非圧縮
- カラー : RGB α 各 8 ビット
- 拡張子 : TGA、tga

[ファイル名]

受信したファイルは SYSTEM メニューの FTP CONFIG 設定で設定された場所に保存されます。

先頭の 3 文字(半角)でファイル種類を設定し、その後にコメントを入れます。

ファイルの拡張子には必ず “.TIF” “.tif” または “.TGA” “.tga” を付けます。



(1)テロップ形式 (半角 1 文字)

M : 板テロップ

L : 横ロール(左)テロップ

R : 横ロール(右)テロップ

V : 縦ロール(下)テロップ

その他の文字は板テロップになります。

(2)枚数 (半角 2 桁)

転送枚数を示します。

板テロップの場合、“01”を入力します。

ロールテロップの場合、最初の 1 枚目には転送する総数を設定し、次のファイルには残りの枚数を設定します。転送形式、コメントは1枚目と同じにします。

(3)コメント

コメントを入力します。CF-9945HD/SD には全角で最大 32 文字がコメントとして登録され、それ以降の文字は切り捨てられます。

(3) vPNGファイル

vPNG ファイルは PNG (Portable Network Graphics) フォーマットを拡張したフォーマットです。通常の PNG ブラウザでファイルを参照すると画像のサムネイルを見る事が出来ますが内容の変更は出来ません。

[仕様]

最大画像サイズ : 1920 × 1080

フォーマット : vPNG 形式

圧縮方式 : 非圧縮、RLE 圧縮、AREA 圧縮

カラー : KEY、FILL、FILL&KEY 各 10 ビット

拡張子 : PNG、png

[ファイル名]

・受信時

受信したファイルは SYSTEM メニューの FTP CONFIG 設定で設定された場所に保存されます。

受信したファイル名は全角で最大 32 文字がコメントとして登録され、それ以降の文字は切り捨てられます。

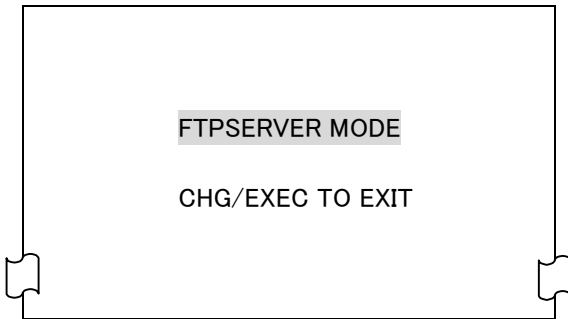
・送信時

ファイル名の頭に 4 桁(項目 2 桁、ファイル番号 2 桁)の数字が入り、その後にコメントが付けられます。

6.FTP サーバー機能

本体内臓の HDD へファイルの受信、または送信が出来ます。各番組(00~99)がディレクトリとして分けられ、ディレクトリの中に記録されている画像(0000~9999)が vPNG ファイルとして一覧に表示されます。

FTP サーバー機能が有効なとき外部の FTP クライアントからログインをされることにより FTP モードへ移行します。FTP サーバー機能は SYSTEM メニューの[FTP CONFIG]-[FTP SERVER]で設定することが出来ます。



本体の制御権が FTP クライアントに移行しファイルの転送が行われます。FTP クライアントが接続を終了することにより FTPSERVER MODE が終了します。また、**CHG/EXEC** でモードを強制的に終了させることができます。(強制終了ではファイル書き込み中などの実行状態により数十秒かかる場合があります。)

FTP接続ポート番号 : 21
 同時接続ユーザー数 : 1
 ログイン名 : 設定されていません
 パスワード : 設定されていません
 アクセス対象 : 本体内臓 HDD のみ
 ディレクトリ表示スタイル : UNIX 形式

対応コマンド一覧

| コマンド | 機能 | 備考 |
|------|-------------|----------------------------------|
| USER | ユーザー名 | 全てのユーザーを許可します。 |
| PASS | パスワード | 全てのパスワードを許可します。 |
| QUIT | ログアウト | ログアウトします。 |
| PORT | データーポート | データー受信口の作成。 |
| TYPE | 転送タイプ | 転送は Binary モードのみ対応。 |
| RETA | データー取得 | 指定 vPNG ファイルをクライアントへ送信します。 |
| STOR | データー転送 | 指定 TIFF、vPNG ファイルをクライアントから受信します。 |
| LIST | ファイル一覧 | 現在のディレクトリの内容を表示します。※1 |
| NLST | 名前一覧 | 現在のディレクトリの内容を表示します。※1 |
| DELE | 削除 | 削除できません。 |
| XPWD | 作業ディレクトリ表示 | 現在のルートディレクトリを返します。※2 |
| PWD | 作業ディレクトリ表示 | 現在のルートディレクトリを返します。※2 |
| CWD | 作業ディレクトリ変更 | ディレクトリを移動します。※2 |
| CDUP | 上位ディレクトリに移動 | |

**1 LIST、NLST で表示されるデーターサイズはすべて 0 になります。

**2 各番組(0~99)がディレクトリとして分けられています。

7.FTP サーバー転送操作手順（例）

FTP サーバーを使用してファイルの転送を行います。クライアントは Windows PC を使用します。

ここでは仮に CF-9945HD/SD の IP ADDRESS を 192.168.1.10 とします。（『10. 3. (1) LAN CONFIG』を参照）

IP アドレスを設定した後は必ず本体を再起動してください。

・CF-9945HD/SD 受信準備

CF-9945HD/SD の FTP サーバーは起動シーケンス終了後、接続可能状態になります。

SYSTEM メニューの FTP CONFIG（『7. 3. 2 FTP CONFIG』を参照）で受信後のファイル保存位置を指定します。

・PC クライアントから CF-9945HD/SD の転送

『10.5 転送ファイル仕様』を参照し転送用の画像(M01TEST.TIF)をPCクライアントの C ドライブのルートに用意します。

C ドライブのルートからコマンドプロンプトを起動します。

コマンドラインから “ftp” コマンドを入力します。

“ftp>” が表示されます。

続いて “open 192.168.1.10” を入力します。

ユーザー名（仮に USER）を入力します。

パスワード（仮に PASS）を入力します。パスワードの入力は画面に表示されません。

以上が正常に終了すると下の画面になり CF-9945HD の FTP サーバーへのログインが完了します。

```
C:\>ftp
ftp>open 192.168.1.10
Connected to 192.168.1.10
220 CF-9945HD FTP Server ready
User (xxx.xxx.xxx.xxx(none)):USER
331 Password required
Password:xxxx
230 Logged in
ftp> |
```

続いて “binary” を入力しモードを Binary モードにします。

クライアントからファイルを送信する場合 “put M01TEST.TIF” を入力するとファイルが転送されます。

転送が正常に終了すると以下のメッセージが表示されます。

CF-9945HD/SD に転送した画像が、FTP CONFIG で指定された場所に保存されます。

```
230 Logged in
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>put M01TEST.TIF
200 PORT command successful.
150 Binary data connection for
M01TEST.TIF(192.168.1.10.xx.xx)
226 Binary Transfer complete.
8302592 bytes sent in 6.17 seconds (1502.80
KBytes/sec)
ftp> |
```

転送するファイルがローカルの場合、続けて“put”コマンドを使用します。

転送を終了させる場合“close”コマンドで接続を終了させます。

- ・CF-9945HD/SD からPCクライアントへの転送CF-9945HD/SDのHDDに記録されている画像をvPNG形式で取得します。クライアントからファイルを受信する場合“pwd”コマンドを入力し現在のディレクトリ位置“/”(ルート)を確認してください。もし異なるディレクトリにいる場合“cd ..”で階層を移動しルートディレクトリに移動できます。

```
ftp>pwd
257 '/' is current directory.
ftp>|
```

ファイルが保存されている PROGRAM(番組)番号に“cd 00”コマンドで移動します。この時の 00 は移動する PROGRAM(番組)番号で、番号が1 や2 などの1桁の場合でも必ず01 と2桁で入力してください。“200 command successful.”と表示されれば成功です。“dir”コマンドで PROGRAM(番組)に記録されているファイルの一覧が表示されます。

```
ftp>dir
200 command succesful
150 open data connection
-rwxrwxrwx 1 11 web 1024 Jan 1
00:00 0000.png
-rwxrwxrwx 1 11 web 1024 Jan 1
00:00 0001.png
-rwxrwxrwx 1 11 web 1024 Jan 1
00:00 0002.png
226 Transfer complete
320 bytes received in 0.64 seconds
```

“-rwxrwxrwx 1 11 web 1024 Jan 1 00:00 0000.png”の右端の“0000.png”が記録されているファイル名です。“get 0000.png”を入力します。転送が正常に終了するとクライアントのローカルディレクトリに0000.pngが保存されます。

```
-rwxrwxrwx 1 11 web 1024 Jan 1
00:00 0002.png
226 Transfer complete
320 bytes received in 0.64 seconds
(0.50Kbytes/sec)
ftp> get 0000.png
200 PORT Command successful
150 Opening data connection
226 Transfer complete
834560 bytes received in 7.61 seconds
(1090Kbytes/sec)
```

8.FTP クライアント機能

SYSTEM モードの FTP TRANSFER を選択する事により FTP 転送モードになります。CF-9945HD/SD は FTP クライアントとして FTP サーバーから vPNG 形式のファイルを取得する事ができます。

ログイン名 : anonymous (匿名接続)

パスワード : なし

FTP サーバー側の設定

- ・TCP ポート番号 21
- ・ディレクトリ表示スタイル UNIX 形式
- ・anonymous (匿名接続) ユーザーの許可
- ・パスワード無しでの接続の許可

9.FTP クライアント転送操作手順 (例)

FTP サーバーから CF-9945HD/SD へ vPNG ファイルの転送を行います。

ここでは仮に CF-9945HD/SD の IP ADDRESS を 192.168.1.10 とします。(『10.3(1) LAN CONFIG』を参照)

IP アドレスを設定した後は必ず本体を再起動してください。

・FTP 接続先設定

接続を行う FTP サーバーの IP アドレスを指定します。

新規に接続を行う場合は NEW CONNECT で IP アドレスを入力してください。

前回接続を行ったアドレスは SAVE CONNECTS に 5 ヶ所保存され、そこから選択する事が出来ます。

パネルの **CHE/EXEC** で FTP サーバーと接続が開始されます。

```
FTP MODE
USER : anonymous
PASSWORD:

SELECT IP ADDRESS

SAVE CONNECTS
192.168.xxx.xxx
192.168.xxx.xxx
0. 0. 0. 0
0. 0. 0. 0
0. 0. 0. 0

NEW CONNECT
192.168.xxx.xxx
```

USER

ログイン名。(ログイン名は anonymous に固定されています)

PASSWORD

パスワード。(パスワードは設定されていません)

SAVE CONNECT

前回接続を行った IP ADDRESS です。最大5ヶ所を記憶することができます。

接続先のアドレスにカーソルを合わせ **CHE/EXEC** で選択を決定します

NEW CONNECT 新たに接続を行うときに接続先の IP ADDRESS を設定します。

パネルのロータリースイッチで数値を変更します。← → で区切りを移動します。**CHE/EXEC** で IP アドレスの入力を決定します。

・ファイル選択

サーバーへの接続メッセージ表示後、接続が正常に終了すると以下のような画面になります。

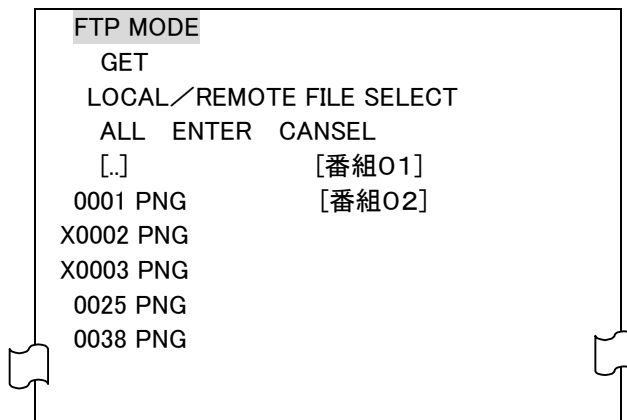
ここで、ローカル(CF-9945HD/SD)の保存先とリモート(FTP サーバー)のファイルを選択します。

ローカル(CF-9945HD/SD)の保存先の選択は操作パネルで保存先ファイル番号を指定してください。

リモートファイルの選択は NEXT メニュー画面上で選択を行います。

操作パネルの ↑ ↓ ← → でカーソルを移動させ **CHE/EXEC** でメニュー上の選択を決定します。選択されたファイル名の横に×印が表示されます。

メニュー上の ENTER を選択する事により、選択されたファイルの転送が開始されます。



ALL 現在表示しているディレクトリ上の全てのファイルを選択します。既に選択されているファイルは、選択が解除になります。

ENTER 選択されたりリモートファイルをローカルのディスクへ転送します。

CANCEL FTP モードを終了し SYSTEM メニューへ戻ります。

[. .] 現在表示しているディレクトリ上のディレクトリに移動します。

[XXXXX] ディレクトリです。選択をする事によりそのディレクトリに移動します。

11.RS-232C 外部制御コマンド

CF-9945HD/SD 本体背面の RS-232C 端子を使って外部装置やパソコンと RS-232C ケーブル(クロスケーブル)で接続し、指定の通信プロトコルによって制御する事が出来ます。

1.通信設定

CF-9945HD/SD 本体背面の RS-232C 端子を使って外部から制御する場合の通信設定は以下の通りです。

| | |
|---------|----------|
| 通信速度 | 19200bps |
| データビット | 8bit |
| パリティ | なし |
| ストップビット | 2bit |
| フロー制御 | ハードウェア |

2.データフォーマット

送受信コマンドはバイナリデータです。データフォーマットは以下の通りです。

| | |
|------------|-------------|
| バイト 0 | 送信データサイズ(n) |
| バイト 1 | コマンド番号 |
| バイト 2~ | パラメーター |
| : | : |
| : | : |
| 最終バイト(n+1) | チェックサム |

| | |
|-----------------|--|
| 送信データサイズ | チェックサムを含まないデータサイズ [1 バイト] |
| コマンド番号 | コマンド固有の番号(詳細は後述) [1 バイト] |
| パラメーター | コマンド実行に必要なデータ(詳細は後述) [0~バイト] |
| チェックサム | 送信データサイズ、コマンド番号、パラメーターの [1 バイト] 総和の下位 1 バイトから 2 の補数をとったもの |

3.コマンド詳細

CF-9945HD/SD の外部制御で使用するコマンドには、外部コントローラから CF-9945HD/SD に送信する制御コマンドと CF-9945HD/SD から外部コントローラに送信する結果通知コマンドがあります。

●通信手順

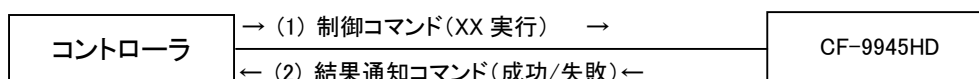
CF-9945HD/SD の外部制御では 1 回の送信ブロックに対し必ず 1 回の受信ブロックがあり、手順としては

(1)制御コマンド発行

(2)結果通知コマンドの受信

で 1 コマンドが完了となります。

1 コマンドが完了する前に次のコマンドが送信されてもコマンドは無効になります。



●制御コマンド

CF-9945HD/SD の RS-232C コマンドで以下の制御が行えます。

CHG SRC DRIVE 各コマンドの実行元となる SCSI ドライブを選択します。

| | |
|---------------|--|
| CHG DST DRIVE | 各コマンドの実行先となる SCSI ドライブを選択します。 |
| CHANGE | NEXT の画像を ON AIR に表示し NEXT に指定されたファイル番号の画像を表示します。NEXT がロール画像の場合ロールが実行されます。 |
| READ | NEXT に指定されたファイル番号の画像を表示します。 |
| WRITE | LINE の画像をフリーズさせ静止画として HDD または MO に記録します。 |
| DELETE | 指定されたファイル番号の素材を削除します。 |
| COPY | 元ファイル番号の素材を先ファイル番号にコピーします。 |
| MOVE | 元ファイル番号の素材を先ファイル番号に移動します。 |
| ROLL WRITE | LINE の画像をフリーズさせロールとして HDD または MO に記録します。 |

以下の通信コマンド表内の\$は 16 進データを、パラメーターの B はバイト、DW はダブルワードを示しています。ファイル No は 6 桁(番組 2 桁・項目 2 桁・ファイル番号 2 桁)の数値をダブルワードのバイナリで表記します。

| コマンド名 | 送信データ サイズ | コマンド No. | パラメーター |
|------------------|--------------|----------|----------------------------|
| CHG SRC DRIVE | 3 | 16(\$10) | SCSI ID(B) ※1 |
| CHG DST DRIVE | 3 | 17(\$11) | SCSI ID(B) ※1 |
| CHANGE | 2 or 6 | 19(\$13) | ファイルNo(DW) ※2 |
| READ | 2 or 6 | 20(\$14) | ファイルNo(DW) ※2 |
| WRITE | 7 | 21(\$15) | ファイルNo(DW), MODE(B) ※3 |
| DELETE | 6 | 22(\$16) | ファイルNo(DW) |
| COPY | 10 | 23(\$17) | 元ファイル No(DW), 先ファイル No(DW) |
| MOVE | 10 | 24(\$18) | 元ファイル No(DW), 先ファイル No(DW) |
| ROLL WRITE | 7 | 25(\$19) | ファイルNo(DW),MODE(B) ※3 |

送信データサイズはチェックサムを含みません。

**1 SCSI ID は 0~6 です。

**2 ファイル No.は省略可能で、省略した場合は NEXT に黒画面を出力します。

**3 MODE は記録するプレーンで 0…FILL&KEY、1…FIFF、2…KEY になります。

●結果通知コマンド

受信した制御コマンドを実行した後、実行結果を通知します。

OK :コマンドが正常に終了したときに送信されます。

ERR :何らかの原因でコマンドが正常終了しなかったとき送信されます。

| コマンド名 | 送信データ サイズ | コマンド No. | パラメーター |
|-------|--------------|-----------|-----------------|
| OK | 2 | 1(\$01) | なし |
| ERR | 3 | 255(\$FF) | エラーコード(B) 詳細は後述 |

送信データサイズはチェックサムを含みません。

●エラーコード

エラーコードとその意味は以下の通りです。

| エラーコード番号 | エラーコードの意味 |
|----------|---------------------|
| 0 | 通信エラー |
| 1 | 不当なコマンド、パラメーターを指定した |
| 2 | DRIVE NOT READY |
| 3 | 未使用 |
| 4 | FILE NOT FOUND |
| 5 | DISK FULL |
| 6 | SCSI エラー |

12.外部 SCSI 装置の接続

背面の SCSI インターフェースには、ハードディスクドライブや MO ドライブなどの SCSI 記憶装置が接続できます。SCSI 装置を接続する際の注意事項を挙げておきます。

- 接続時は CF-9945HD/SD 本体と各 SCSI 装置の電源が OFF になっているのを確認してから行ってください。
- 必ず終端器(ターミネーター)を使用してください。

内蔵 HDD の ID は0、内蔵 MO ディスクドライブの ID は1です。外部 SCSI 装置の ID は 2～6 の範囲で ID 番号を設定してください。

- 外部 SCSI 装置の電源は CF-9945HD/SD 本体より先に入れてください。
- SYSTEM MODE の SCSI CONFIG で外部 SCSI に割り当てる ID を指定してください。

13.トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処方法です。

(文中の→は対処方法を示しています)

現象 電源を入れても電源ランプが点灯しない！

原因 ヒューズが切れていませんか？

→確認後交換してください。

現象 映像が同期しない！

原因 SYNC IN は確実に入力されていますか？

→SYNC、または BBS を入力してください。

映像フォーマットが正しいモードに設定されていますか？

→『4.映像フォーマット』を参照しモードを設定して再起動を行ってください。

現象 メニューが表示されない。

原因 ON AIR 出力をプレビューしていませんか？

→ON AIR にメニューは表示されません。NEXT 出力でプレビューしてください。

メニューが OFF に設定されていませんか？

→『3.2.(1)操作パネル正面』の(3)MENUにある **ON/OFF** スイッチでメニューを ON にしてください。

現象 操作パネル上から操作が行えない。

原因 パネル上のランプは点灯していますか？

→操作パネルの背面に電源及び、電源スイッチが有ります。確認してみてください。

操作パネル上の COM ランプが点滅していませんか？

→本体と操作パネルが同軸ケーブルで接続されているか確認してみてください。

フォーマット、コピーなどの処理を行っていませんか？

→フォーマット、コピー、ロール送出等の処理中は他の処理を行えません。処理が終わるまで作業を中断してください。

現象 ディスク(内蔵・外部)を確認しない！

原因 SCSI ID が重複していませんか？

→内臓 HDD は ID 0、内臓 MO は ID1 が出荷時に設定されています。重複しないように設定してください。

システムモードの SCSI CONFIG で外部 SCSI の ID 番号が設定されていますか？

→『6.8 SCSI CONFIG』で外部 SCSI の設定を行ってください。

外部 SCSI ディスクの場合は本体よりも先に電源を入れましたか？

→外部SCSIディスクを確実に起動してから、CF-9945HD/SD の電源を入れてみてください。

SCSI ケーブルの接続は確実ですか？緩んだり外れたりしていませんか？

→しっかり接続してください。

終端器(ターミネーター)は接続してありますか？

→外部 SCSI ディスクの最終端に終端器(ターミネーター)を接続してください。

フォーマットは行いましたか？
→ディスクをフォーマットしてください。
外部 SCSIに原因があるかもしれません？
→CF-9945HD/SD 単体で起動してみてください。
起動できるなら外部ディスクに問題があります。
ディスクが壊れた可能性があります。
→当社製造技術部にご連絡ください。

現象 ディスクに書き込めない！

原因 フォーマットは行いましたか？
→ディスクをフォーマットしてください。
光磁気ディスクの場合、書き込みの禁止のメディアを使用していませんか？
→書き込み禁止を解除して使用してください。
DISK FULL のメッセージが出ていませんか？
必要のないファイルを消してディスクの整理をしてください。

現象 「READ ERROR」が頻繁におこる！

原因 ディスクの不具合が考えられます。
→同じファイル番号に書き込みをし直してください。
→それでも改善されない場合は、当社製造技術部にご連絡ください。

現象 「WRITE ERROR」が頻繁におこる！

原因 ディスクの不具合が考えられます。
→CF-9945HD/SD 内部でエラー対策を行っています。
何度か書き込みを続けても改善されないようでしたら当社までご連絡ください。

現象 書き込みに時間がかかる！

原因 ロール素材のコピーではページ数により時間がかかる場合があります。
また、MO への書き込みには、保存されている素材数が増える事により処理時間がかかります。
その他、ディスクの不具合も考えられます。
可能であればディスクをフォーマットしてください。
(すでにあるファイルはすべて消えてしまいます)
→それでも改善されない場合は、当社製造技術部にご連絡ください。

現象 読み出しがスムーズでない！

読み出し途中でいったん止まり、再開する！
読み出した画面がおかしい！

原因 MO への書き込みには、保存されている素材数が増える事により処理時間がかかります。
また、書き込み時に行ったディスクの不具合対策(セクタの代替処理など)のためと考えられます。
→可能であればディスクをフォーマットしてください。
(すでにあるファイルはすべて消えてしまいます)
→それでも改善されない場合は、当社製造技術部にご連絡ください。

現象 素材ファイルが出力されない。

原因 動作モードが送出モードに設定されていますか？

→『5.2 操作概要』を参照し、動作モードを送出モードに設定してください。

送出ポジションに正常な値が設定されていますか？

→『5.7 送出ポジションについて』を参照し、送出ポジションを設定してください。

現象 トランジションが実行されない。

原因 NEXT 出力をプレビューしていませんか？

→NEXT にトランジションは出力されません。ON AIR 出力でプレビューしてください。

送出モードが DIRECT になっていませんか？

→ダイレクトモードではトランジションが実行されません。『8 送出モード』で PRESET にしてください。

トランジションスピードが短い値になっていませんか？

→『5.6 トランジションについて』を参照し、トランジションスピードを設定してください。

現象 ロールが実行されない。

原因 NEXT 出力をプレビューしていませんか？

→NEXT にロールは表示されません。ON AIR 出力でプレビューしてください。

ロール素材のページ数が 1 ページになっていませんか？

→ページを追加して 2 ページ以上のファイルを作成してください。

ロールスピードが短い値になっていませんか？

→『5.6 トランジションについて』を参照し、ロールスピードを設定してください。

また、MO からのロール送出は早いスピードで送出すると MO の読み込みが間に合わない場合があります。HDD にコピーを行い、送出してください。

お問い合わせは、当社製造技術部までご連絡ください。

14.外部インターフェース

1.SCSI

本体背面の SCSI コネクタには、HDD や MO ディスクドライブ等の SCSI 記憶装置が接続できます。
(68 ピン SCSIⅢハーフピッチコネクタ)

接続する際は以下の項目を守ってください。

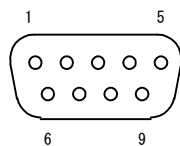
- ・接続時は、CF-9945HD/SD 本体、各 SCSI 機器の電源を落としてから行ってください。
- ・終端器(ターミネーター)を必ず使ってください。
- ・ID は 2~6 の範囲で設定してください。(内蔵の HDD は 0、MO は 1 です)
- ・CF-9945HD/SD 本体の電源を入れるよりも先に、外部の SCSI 機器の電源を入れてください。

2.RS-232C

パソコンと RS-232C ケーブル(クロスケーブル)で接続し、指定の通信プロトコルによって外部から CF-9945HD/SD をコントロールすることができます。詳細は「11. RS-232C 外部制御コマンド」を参照してください。

(1)コネクタ表

| ピン番号 | 信号名 | 入出力 |
|------|-----|-----|
| 1 | +5V | 出力 |
| 2 | RXD | 入力 |
| 3 | TXD | 出力 |
| 4 | DTR | 出力 |
| 5 | GND | - |
| 6 | DSR | 入力 |
| 7 | RTS | 出力 |
| 8 | CTS | 入力 |
| 9 | N.C | - |



***5V の出力は、指定機器(オプション機器)以外接続しないようお願いします。

(2)RS-232C設定

パソコン側の通信設定を以下の様に設定してください。

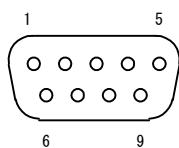
| | |
|---------|----------|
| 通信速度 | 19200bps |
| データー | 8ビット |
| パリティ | なし |
| スタートビット | 1ビット |
| ストップビット | 2ビット |

3.RS-422

拡張用です。10 キーリモコン(オプション)との接続に使用します。

(1)コネクター表

| ピン番号 | 信号名 | 入出力 |
|------|------|-----|
| 1 | GND | - |
| 2 | TXD- | 出力 |
| 3 | RXD+ | 入力 |
| 4 | GND | - |
| 5 | +5V | 出力 |
| 6 | GND | - |
| 7 | TXD+ | 出力 |
| 8 | RXD- | 入力 |
| 9 | GND | - |



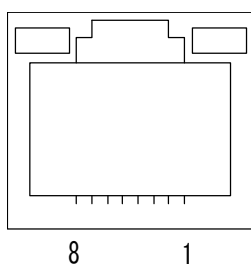
**+5V の出力は、指定機器(オプション機器)以外接続しないようお願いします。

4.100BASE-TX

ネットワークにおけるファイル転送で使用します。

(1)コネクター表

| ピン番号 | 信号名 | 入出力 |
|------|-----|-----|
| 1 | TX+ | 出力 |
| 2 | TX- | 出力 |
| 3 | RX+ | 入力 |
| 4 | N.C | - |
| 5 | N.C | - |
| 6 | RX- | 入力 |
| 7 | N.C | - |
| 8 | N.C | - |



5.REMOTE

リモートコントロール用の接点入出力端子で、6 入力、2 出力あります。

(1)コネクタ表

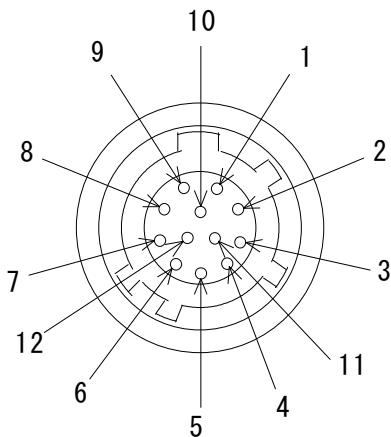
| ピン番号 | 内容 | 入出力 |
|------|------------|------|
| 1 | CHANGE | 接点入力 |
| 2 | SKIP | 接点入力 |
| 3 | BACK | 接点入力 |
| 4 | GND | - |
| 5 | 入力予備 1 | 接点入力 |
| 6 | 入力予備 2 | 接点入力 |
| 7 | WRITE | 接点入力 |
| 8 | GND | - |
| 9 | WRITE END | 接点出力 |
| 10 | WRT GND | - |
| 11 | CHANGE END | 接点出力 |
| 12 | CHG GND | - |

(2)入力端子

| | |
|--------|---|
| CHANGE | NEXT の画像を ON AIR に表示し NEXT に次のファイル番号の画像を表示します。ONAIR がロールスタンバイ状態の場合はロールを実行します。 |
| SKIP | NEXT 出力へ次のファイル番号の画像を読み出します。 |
| BACK | NEXT 出力へ前のファイル番号の画像を読み出します。 |
| WRITE | 先頭のファイル番号から記録されていない空き番号に順に入力信号を記録します。「WRITE SURE?」などの確認メッセージは表示されません。 |

(3)出力端子

| | |
|-----------|--|
| WRITE END | WRITE 実行中に 9 番ピンと 10 番ピンをショートさせます。処理が完了するとピンをオープンにします。 |
| CHANGE | END CHANGE 実行中に 11 番ピンと 12 番ピンをオープンにします。処理が完了するとピンをショートさせます。 |



15.仕様

1.定格

◇入力信号

| | | |
|---------|---|--|
| ・REF 信号 | 3 値 SYNC 0.6V _{p-p} /75Ω または、BBS0.43V _{p-p} /75Ω | BNC1 系統 ブリッジ可 **3 値 SYNC と BBS は自動切り替え。 |
| ・フィル信号 | SMPTE-292M or SMPTE-259M | BNC2 系統 |
| ・キー信号 | SMPTE-292M or SMPTE-259M | BNC2 系統 |

◇出力信号

| | | |
|---------------|--------------------------|----------|
| ・ON AIR-フィル信号 | SMPTE-292M or SMPTE-259M | BNC 2 系統 |
| ・ON AIR-キー信号 | SMPTE-292M or SMPTE-259M | BNC 2 系統 |
| ・NEXT-フィル信号 | SMPTE-292M or SMPTE-259M | BNC 2 系統 |
| ・NEXT-キー信号 | SMPTE-292M or SMPTE-259M | BNC 2 系統 |

◇映像フォーマット

- ・1080i 1920 X 1080i (59.94Hz)
 - ・525i 720 X 486i (59.94Hz)
- **映像フォーマットは CODE スイッチで切り替えます。

◇コントロール信号

- ・PANEL BNC 1 系統
- ・RS422 D-SUB9 ピン メス 1 系統
**拡張用です。10 キーリモコン(オプション)との接続に使用します。
- ・RS232C D-SUB9 ピン オス 1 系統
**外部制御コマンドで PC などから外部制御できます。
- ・REMOTE 丸形 12 ピン ロックタイプ 1 系統
接点入力×6 (CHG、SKIP、BACK、WRITE、予備×2)
接点出力×2 (WRT_END、CHG_END)

◇ネットワーク

- ・100BASE-TX RJ-45 1 系統
- ・プロトコル TCP/IP
FTP (ファイル転送)

◇SCSI インターフェース

- SCSI-3、SE、スクリュールック 68 ピン 自動終端器内蔵 1 系統

◇内蔵ハードディスク

- ・容量 140GB
- ・記録枚数 FILL+KEY で 10000 枚記録可能
- ・読み出し時間 FILL+KEY で約 1.0 秒

◇内蔵 MO ディスクドライブ

- ・容量 2.3GB
- ・記録枚数 FILL+KEY で約 200 枚記録可能 *解像度、圧縮率により異なります
- ・書きこみ時間 FILL+KEY で約 13 秒 *2.3GB のメディアを使用した場合
- ・読み出し時間 FILL+KEY で約 3 秒 *2.3GB のメディアを使用した場合

◇外部同期信号に対する出力遅延

SUPERIMPOSE OFF0 同位相

HD モード時: MODE NORMAL/90H 切り替え

-1H ~1H の調整が可能

SD モード時: BB と同期

-1H ~1H の調整が可能

SUPERIMPOSE ON 3LINE 遅れ

◇映像引き込み範囲

FILL、KEY 信号共に外部同期信号に対して $-(1H + 2.7\mu) \sim 2H + 27\mu s$

◇外形寸法

- ・本体 420W×88H×450D (突起部含まず)
- ・操作パネル 360W×177H×60D (突起部含まず)

◇質量

- ・本体 12Kg
- ・操作パネル 3Kg

◇電源

- ・本体 AC95~120V 50/60Hz
- ・操作 AC95~120V 50/60Hz

◇消費電力

- ・本体 120VA
- ・操作パネル 25VA

◇動作温度 0~40°C

◇動作湿度 20~80%RH (ただし結露なき事)

2.性能

◇サンプリング分解能/周波数

・FILL 信号

10bit/74.18MHz(HD-SDI 59.94Hz)

13.5MHz(SD-SDI 59.94Hz)

・KEY 信号

10bit/74.18MHz(HD-SDI 59.94Hz)

13.5MHz(SD-SDI 59.94Hz)

3.機能

◇SUPERIMPOSE ON AIR/NEXT

◇ポジション移動

垂直方向 2 ライン、水平方向 2 ドットのステップで設定可能。

◇トランジション機能

SCROLL

方向 上、下、左、右

速度 2～300 フレーム

SIDE WIPE

方向 上、下、左、右

速度 2～300 フレーム

CENTER WIPE

方向 H-OPEN、H-CLOSE、V-OPEN、V-CLOSE、HV-OPEN、HV-CLOSE

速度 2～300 フレーム

SLIDE

方向 上、下、左、右

速度 2～300 フレーム

DISSOLVE

速度 2～300 フレーム

FADE

速度 2～300 フレーム

CUT

◇パタンゼネレーター

FULL COLOR BAR, SPRIT COLOR BAR, ARIB, GRADATION, MULTI BURST

◇NEXT 出力メニュー表示

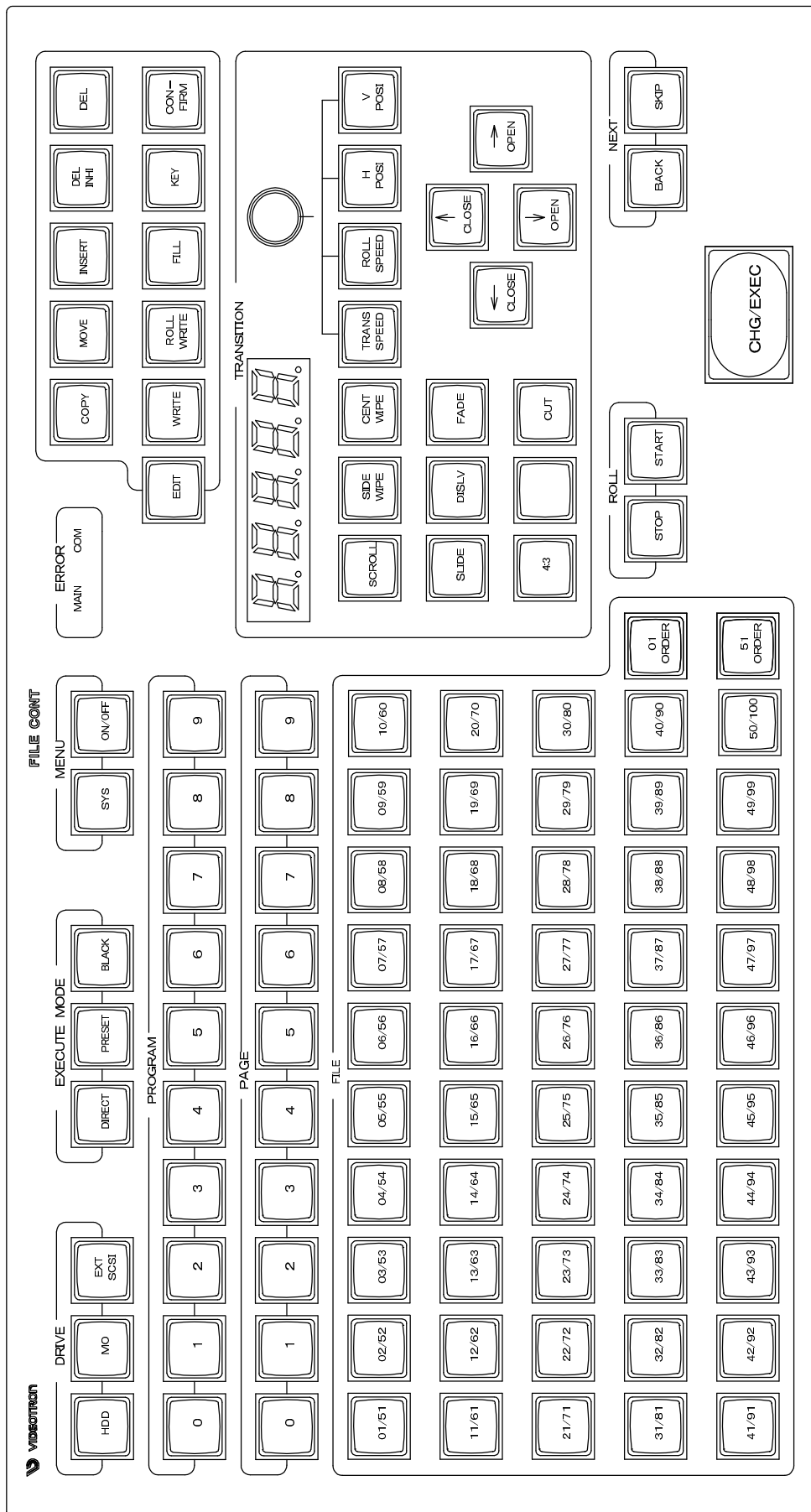
操作パネルから ON/OFF 可能。

◇ロールファイル作成/送出

ロール枚数 最大 128 ページ。

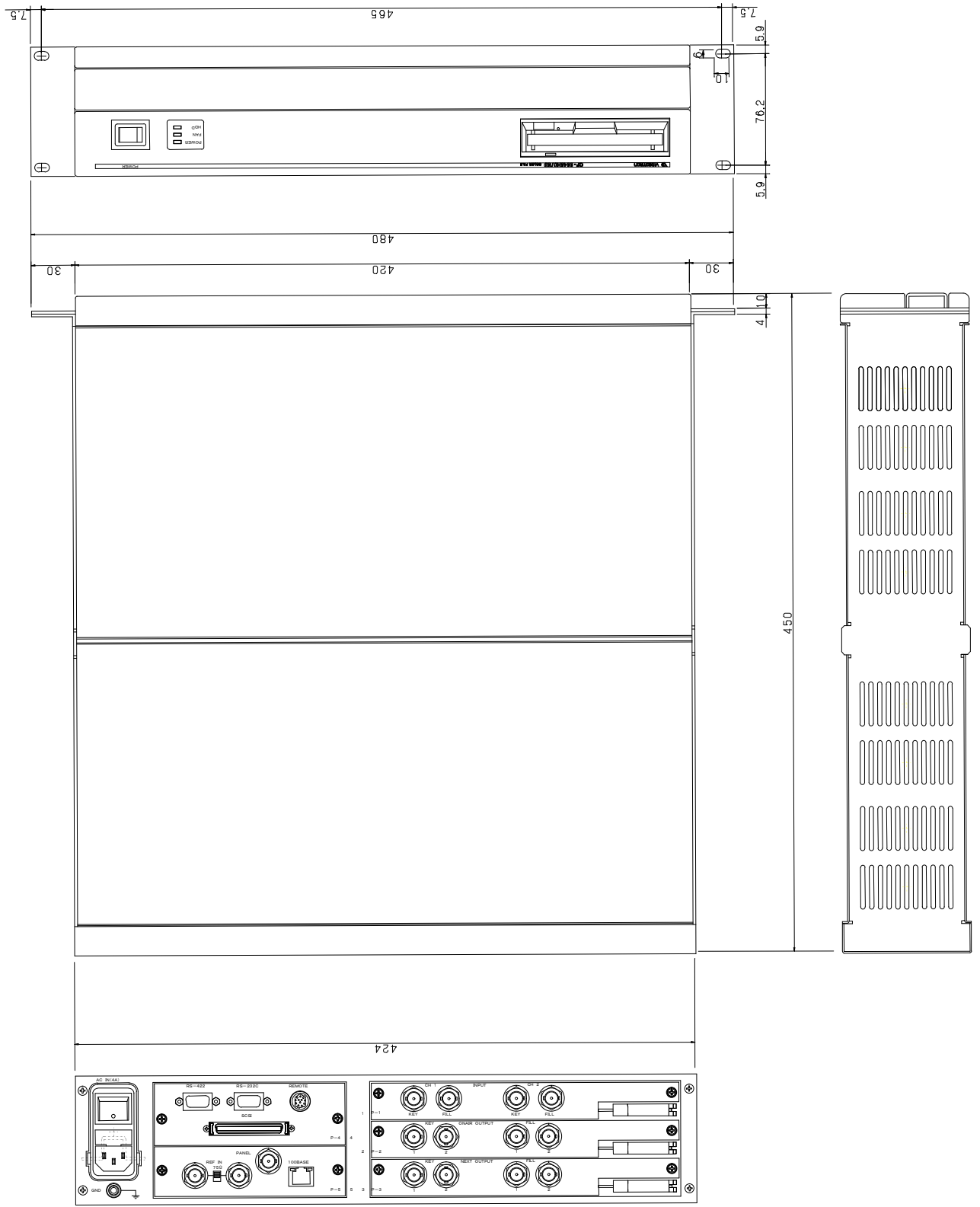
速度 30 フレーム以上／1 画面(HDD 送出時)

16.操作パネル図

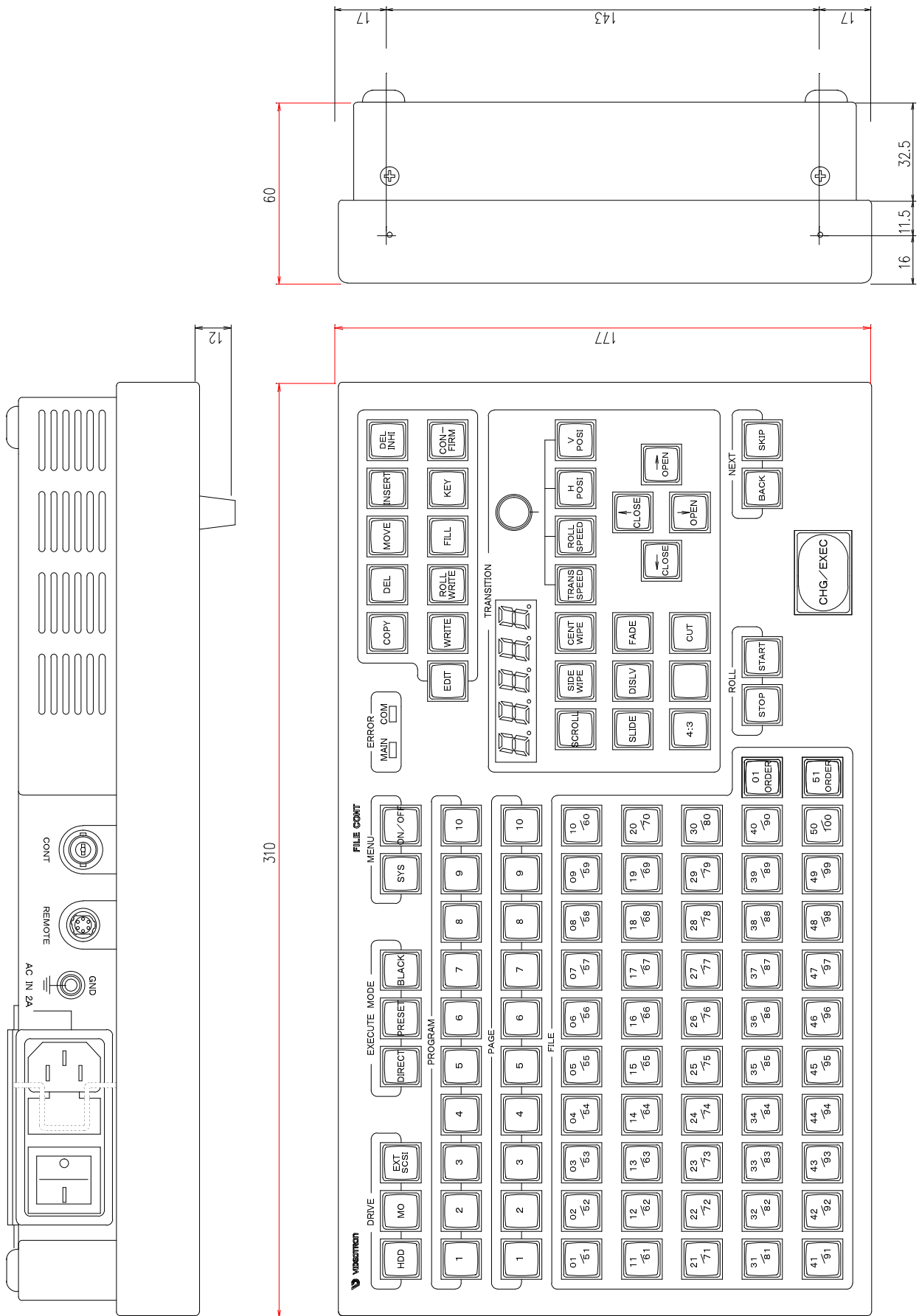


17.外形寸法

1.本体



2.操作パネル



御使用各位 殿

ビデオトロン株式会社

製造技術部

緊急時の連絡先について

日頃は、当社の製品をご使用賜わりまして誠にありがとうございます。
ご使用中の製品が故障する等の緊急時には、下記のところへご連絡いただければ
適切な処置を取りますので宜しくお願い申し上げます。

記

◎営業日の連絡先

ビデオトロン株式会社

製造技術部

〒193-0835 東京都八王子市千人町 2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

e-mail: cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

※携帯電話の為、通話に障害を起す場合がありますので、あらかじめご了承願います。

無断転写禁止

- ・このファイルの著作権はビデオtron株式会社にあります。
- ・このファイルに含まれる文書および図版の流用を禁止します。